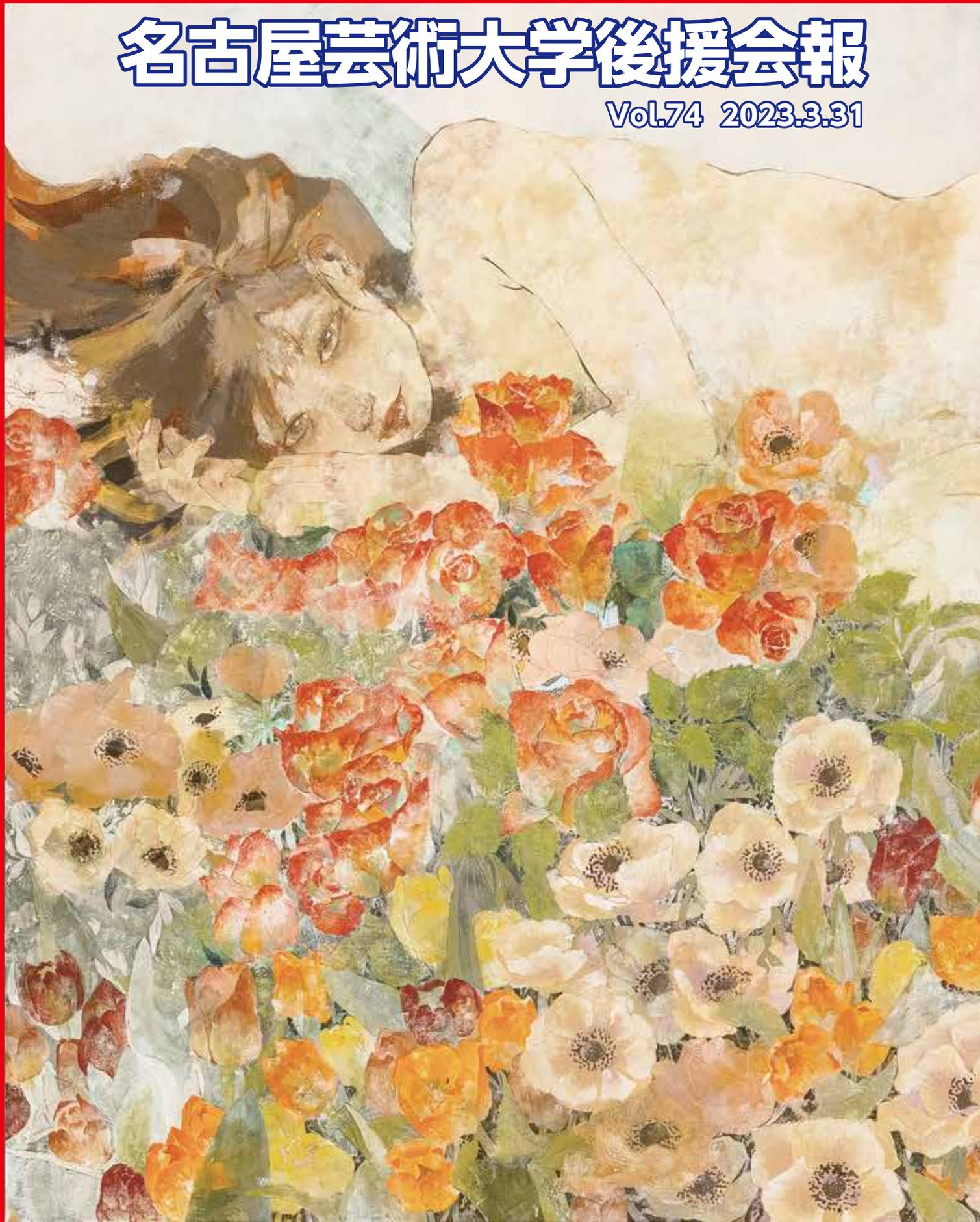


★❄️ Challenge to the future
BORDERLESS

名古屋芸術大学後援会報

Vol.74 2023.3.31



CONTENTS

1	目次・後援会理事募集のお知らせ	17	私が就職内定をもらうまで
2	卒業生に贈る言葉	19	第3回名古屋芸術大学後援会賞
3	学生支援(食料品・生理用品の配布)ご報告	20	2022年度 第26回ブライトン大学賞
5	第2回 後援会功労者表彰 壁の華 会員募集	21	名古屋芸術大学賞
6	2022年度 後援会理事研修ご報告 せせらぎ合唱団 会員募集	22	音楽領域 第50回卒業演奏会 大学院音楽研究科 第25回修了演奏会 第50回名古屋芸術大学卒業・修了制作展
7	ローターアクトクラブとのコラボ企画	23	大学院美術研究科 修了制作展
8	第10回定期演奏会の鑑賞のご報告 100円カレー提供	24	大学院デザイン研究科 修了制作展
9	後援会室開室セレモニー	25	在学生及び卒業生の 展覧会・各種コンクール等受賞結果
10	芸大祭報告	27	国際交流事業
11	学務部報告	29	後援会補助公開講座実施報告
13	学生支援チーム報告	33	トピックス・ピックアップ
15	親の想い	37	名古屋芸術大学後援会会則・規程・内規
16	子の想い	38	後援会賛助会員紹介・編集後記

後援会で一緒に活動しませんか

日頃より名古屋芸術大学後援会へのご理解ご協力を賜りありがとうございます。
後援会は名古屋芸術大学の目的と教育方針に基づき、学生の福利厚生と大学の教育研究活動への各種支援活動を行っている在学生の保護者団体です。
後援会員のお子様方に充実した学生生活をお送りいただくとともに、保護者と大学教職員との親睦交流を図る研修旅行や広報誌の発行、会員のための絵画とコーラスのサークルなど、みんなで楽しく活動しています。
後援会では現在、私たちと一緒に活動していただける新しい仲間を募集しております。どうぞお気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

電話:0568-26-3355
FAX:0568-26-2101
E-mail:kouenkai@nua.ac.jp

名古屋芸術大学後援会
副会長(総務委員長)

荻須 紀子

【表紙説明】 第50回名古屋芸術大学卒業・修了制作展／第3回後援会賞受賞作品
タイトル 「花にささやく」
美術領域 日本画コース 山本 史歩子

卒業生に贈る言葉



名古屋芸術大学後援会
会長 渡邊 綱夫

ご卒業される皆さん、本日は誠におめでとうございます。皆さんは今、ご卒業する喜びと、未来への不安でいっぱいだと思います。

そんな人生の先輩である私から社会の一員になる皆さんに対し、三つの大切な言葉をお送りさせていただきます。

一つ目は、耐え忍ぶということです。人生は常に我慢しなければならない事の連続です。社会においても上司、先輩と多くの方々との人間関係がつきものです。辛くとも我慢し余計なことをせず、信頼を得ることに専念することが、新入社員の習わしと考えます。

二つ目は、やらないで後悔するよりは、やってみて後悔をすべし、です。やらなかったことに関しての後悔はおおよそ想像できますが、やった後に後悔することは、想像できません、やってみなければ分からない事は幾つもあります。やった事により良い方向に向くこともあれば、大失敗することもあるでしょう。皆さんの心の中にこれから、とりあえずやってみるという選択肢を優先させてください。

三つ目は、経験こそが最大の武器になるということです。これからの人生において、いろんなことを経験し、それを生かして、考え、悩み、時には挫折し、時には成功に酔いしれ、心の中に情熱や譲れないものを手に入れてゆく事となるでしょう。多くのことを経験すれば、その経験を糧に多くの苦難を乗り越えていける力を養うことができます。どうぞ多くの事を学び、経験し、あらゆることを計算できる優れた人材となるよう心からお祈りいたします。

最後に皆さんにお伝えしたいことは、皆さんのこれからの人生は白紙です。それが成功か挫折かなどは誰も知りません、これからは自分で判断し答えを見つけながら、一步一步を切り開いていくしかないのです。

人生の主人公として、自分を常に見つめ直しながら、そんな無限に広がる可能性を信じ、社会の歯車の一部として溶け込んでいってください。

皆さんの今後のご活躍を応援いたします。



名古屋芸術大学
学長 竹本 義明

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症が発生して3年になりますが、ワクチン接種率の向上により大学は大きな支障もなく運営ができるようになりました。最近、政府が新型コロナウイルス感染症を感染症法で2類相当の扱いを、5月から5類に引き下げると表明しています。

また、5類移行に先立ち大規模イベントでの収容人数制限を緩和し、収容定員の50%としてきた制限を撤廃することを決めました。大学では感染状況やワクチン接種の推移を見て、名古屋芸術大学活動指針を適宜見直し、引き続き対策を徹底し運営を行ってまいります。

大学は教育、研究、社会貢献という3つの使命を持っていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、学生が大学生活で経験するあらゆる機会が中断され、学生の人的成長にとって必要な学内外でのさまざまな活動が制限されました。

特にクラブ活動やイベントの企画・運営など、大学生活において同級生や、先輩、後輩と協働し協力する経験が失われたことが残念です。しかし、専門知識やスキルを身につけることについては、授業において修得ができたと考えています。

各種イベントでは、急にメンバーがコロナ陽性となり、急遽仲間が代役を務めるなどの事業が度々見受けられました。しかし、イベントを中止することなく全員でやり遂げたことなどは、大きな経験となっています。

今年度の卒業生は、社会で遭遇する困難に耐え、突破することができる社会人として必要な資質や能力を備えることができたと考えています。あらためて皆さんが希望を持って社会で活躍することを願っています。

● 特集

学生支援(食料品・生理用品の配布)ご報告

事業委員長 浦野 直行

2022年12月9日(金)午前10時30分から午後1時30分まで、東キャンパス交流テラス1F学生食堂付近、西キャンパスB棟1F学生食堂付近におきまして総勢11名で学生支援活動として食料品・生理用品の配布を実施しました。

配布品に関しては、レトルトカレー2個と真空パックごはん2パックを100セットずつ、生理用品2パックを100セットずつ用意し、新型コロナウイルス感染予防対策を心掛けて、受け取りに来てくださった学生に順次配布しました。



配布品は、徳重・名古屋芸大駅近くのローソンストア 100 徳重名古屋芸大駅前店で購入しました。その際、配布用のレジ袋をオーナーの永井様より400枚ご提供いただきました。ありがとうございました。また、生理用品につきましては、東キャンパス近くのサンドラッグ熊之庄店で購入いたしました。

非常に多くの学生に立ち寄ってもらい、予定していたすべての配布数量をお渡しすることが出来ました。多くの学生から感謝の言葉や笑顔をいただき、準備の苦勞が吹き飛ばす思いでした。

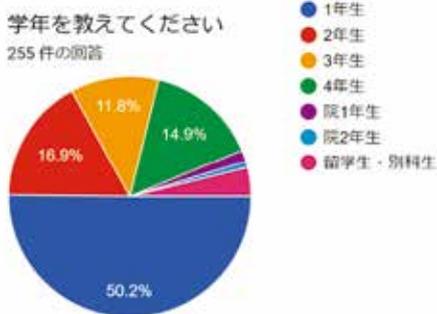
活動終了後、東キャンパス12号館2F多目的室におきまして、「振り返りの会」を開催し、企画のご提案をいただきました矢野章子監事に、感謝の気持ちを込めて花束をお贈りしました。皆さまと意見を交わし、次への繋がりとなる大変有意義な時間となりました。



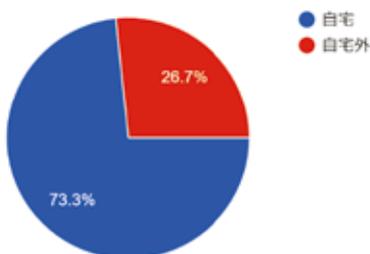
今回の活動を実施するにあたりまして、たいへん多くの皆さまにお力添えをいただきました。学生支援活動会場には、竹本学長をはじめ多くの教職員の皆さまに足をお運びいただき、激励のお言葉を頂戴いたしました。心より感謝を申し上げます。これからも、さらなるお力添えをいただければ幸いです。



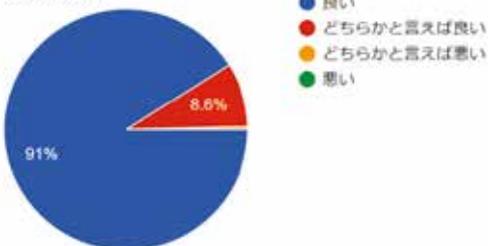
2022年12月9日 学生支援（食料品・生理用品の配布）アンケート結果（Google フォーム）



自宅通学ですか？自宅外通学ですか？
255件の回答



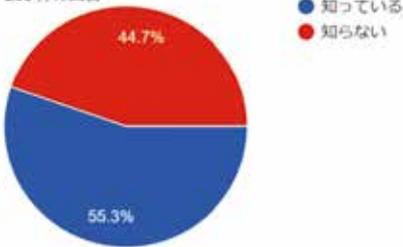
今回の支援はいかがですか。
255件の回答



名古屋芸術大学後援会をご存じですか。
255件の回答



名古屋芸術大学後援会は名古屋芸術大学の学生の保護者の会です。そのことをご存じですか。
255件の回答



ほかにどんな支援品があったら良いと思いますか？（自由記述）

109件の回答（主な回答）

お菓子・カップ麺・保存食・袋麺・お米・カンパン・ゼリー・非常食・賞味期限が長いパン・パスタとレトルトのルー・ティッシュ・トイレトペーパー・マスク・ハンドソープ・ウエットティッシュ・日用品・洗剤・消毒用品

- ・今のままで嬉しいです。
- ・生理用品が1番助かっています。
- ・何か支援していただけるだけで有り難いです。
- ・今のものが1番助かっています。

【まとめ】

アンケート回収率はほぼ100%でした。アンケートの「名古屋芸術大学後援会をご存じですか。」という質問では、『知っている』『聞いたことがあります、なんとなく知っている』の回答が合わせて86%。また、「名古屋芸術大学後援会は名古屋芸術大学の学生の保護者の会です。そのことをご存じですか」の問いには約55%の学生が『知っている』との回答があり、後援会の支援活動を重ねるたびに認知度が上がってまいりました。これは支援活動にご参加いただいた理事の皆様から、「配布の際に学生と会話をしているときに学生から『前にも支援品を受け取り、今回も来ました。嬉しいです。』などの声があり、後援会の認知度が高まってきていることを実感することが多くありました。」との声も多く聞きました。

今年度、後援会にて新しく作製しました「幟旗」は、こうした活動の際には大変効果的でした。

今回の支援品は、食料品と生理用品の両方を用意しましたが、これは概ね好評でした。後援会担当者からの声掛けの際の学生との触れ合いの中で、後援会として様々な学びがありました。

今回の学生支援活動を実施するにあたりまして、大変多くの方々にお力添えをいただきましたからこそ有意義な活動することが出来ました。心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

第2回

後援会功労者表彰

「第2回後援会功労者表彰」を実施しました。

後援会では2019年度、永年に渡り後援会活動に顕著な功績があった方々に対し、感謝の意を表するため「名古屋芸術大学後援会表彰規定」を制定しました。この規定に基づき、「第2回後援会功労者表彰」が行われ、6名の後援会OB・OG（会長経験者）に感謝状と記念品が贈呈されました。

コロナ禍での後援会活動は思った以上に困難でありました。2022年度の理事研修（一日研修）についても実施が危ぶまれましたが、大先輩の方々から多くの助言、激励のお言葉を頂戴し、背中を押していただくことで、実現することができました。そこで日頃より後援会活動を応援し支えてくださっている先輩方を表彰すべく、準備を進め、令和4年10月1日、3年ぶりに実施された一日研修の昼食会場において表彰させていただきました。



写真左より

- | | | | | | | |
|---------------|---------------|--------------|----------------|---------------|-----------------|---------------|
| 矢野
章子
様 | 山内
正春
様 | 山田
貢
様 | 渡邊
綱夫
会長 | 日置
達郎
様 | 菊井
政右衛門
様 | 平井
友明
様 |
|---------------|---------------|--------------|----------------|---------------|-----------------|---------------|

今回受賞された大先輩の皆さまは、日頃より私たち後輩を力強く見守ってくださっている方々です。

6人の受賞者の方々、心より感謝申し上げます。これからもご指導いただき、後援会の発展のために応援をよろしくお願い致します。

【受賞対象者6名の皆さまのご紹介】

■ 日置 達郎 様

- 2002年度（平成14年度）会長
- 2003年度（平成15年度）監事
- 2004年度（平成16年度）顧問就任
（現在は退任）

■ 平井 友明 様

- 2014年度（平成26年度）会長
- 2015年度（平成27年度）監事
- 2017年度（平成29年度）会長
- 2018年度（平成30年度）監事
- 2019年度（平成31年度）顧問就任
- 2021年度より「せせらぎ合唱団」会長

■ 山田 貢 様

- 2016年度（平成28年度）会長
- 2017年度（平成29年度）監事
- 2018年度（平成30年度）顧問就任

■ 山内 正春 様

- 2018年度（平成30年度）会長
- 2019年度（平成31年度）監事
- 2020年度（令和2年度）監事
- 2021年度（令和3年度）顧問就任

■ 菊井 政右衛門 様

- 2019年度（平成31年度）会長
- 2020年度（令和2年度）会長
- 2021年度（令和3年度）監事
- 2022年度（令和4年度）顧問就任

■ 矢野 章子 様

- 2021年度（令和3年度）会長
- 2022年度（令和4年度）監事

絵画グループ 壁の華 会員募集

絵を描くのは苦手ですか？誰でも最初は上手く描けるか不安です。私達、絵画グループ「壁の華」は名古屋芸術大学後援会の有志により活動を続けています。

毎月一回、大学の先生方により懇切丁寧な指導を頂き、初心者の方も無理なく自然に絵画を楽しめる事が出来ます。

1年間を通して私達と絵画以外にアクセサリー、陶芸と芸術を楽しみましょう。詳しくはメールにて連絡致します。皆様のご参加、お待ちしております。



【活動状況】

1. 年会費：12,000円
2. 日 時：基本毎月第3日曜日
午後2時～4時
(受講科目により変更があります。)
3. 開催場所：西キャンパス、その他
4. 受講科目：日本画・洋画・工芸



問い合わせ先

会 長 石黒 和 広
運営委員長 余呉 めぐみ
e-mail: kabehana.nua@gmail.com



●特集

2022年度 後援会理事研修(一日研修) ご報告

2020年度、2021年度と、コロナ禍の影響により、催行中止を余儀なくされておりました『後援会 研修旅行』でしたが、今年度は『後援会 理事研修(一日研修)』として実施いたしました。

日程は、2022年10月1日(土) 8時～18時、行先は浜松方面へのバスの旅でした。参加者は、役員・理事が14名、顧問・顧問退任者の方々が7名、総勢21名です。



西キャンパス K棟横の駐車場に集合、新型コロナウイルス感染症対策のため、受付にて参加者全員に、抗原検査を実施しました。

研修先は、午前中に『平野美術館』、午後から『浜松市楽器博物館』、『賀茂真淵記念館』を訪れました。各見学先では、ギャラリートークや楽器演奏の実演など、大変わかりやすくて馴染みやすい研修が出来ました。



昼食は、浜松駅前の『うなぎ藤田』にて、うなぎをいただきました。



すべての研修先訪問のあと、『SWEETS BANK』にて買い物をしました。

バス車内におきましては、感染対策を十分にいたしまして、アトラクションとして高速道路のインターチェンジ到着時間当てクイズ、定番のビンゴ大会を実施しました。

今回の一日研修におきましては、現役の役員・理事同士の交流はもちろんのこと、ご参加の顧問・顧問退任者の皆様と交流ができました。大変有意義な時を過ごす事ができました。

以上のとおり、ご報告申し上げます。ご協力いただきました皆様ありがとうございました。



「せせらぎ合唱団」団員募集

せせらぎ合唱団は、名古屋芸術大学後援会公認の合唱サークルです。「みんなで歌って楽しもう」と在校生や卒業生の父兄が集まり1998年から活動しています。

「せせらぎ」とは、小川の流れやその音のことです。一人の声は小さいですが、仲間を聞き合わせると、素晴らしいハーモニーになります。主に歌っているのは、皆様も聞き覚えのある日本語の曲ですが、なかには江端先生の編曲で「せせらぎオリジナル」にして歌ったりしています。

声を出すことで健康と楽しさを実感できるこのサークルへ、ぜひ参加してください。皆様のご参加、お待ちしております。



- 【練習日】 毎月第3土曜日の午後1時から2時30分まで
- 【場所】 主に東キャンパス4号館の3階の多目的ホール
- 【年会費】 12,000円
- 【指導者】 本校の卒業生である山田正文先生と江端智哉先生により、発声の仕方から各パートの音取りを丁寧にご指導いただいています。
- 【活動内容】 芸大祭・名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団「第九」演奏会参加等。

問い合わせ先

会長 平井 友明
副会長 近藤 結花
e-mail: jhonsunuputi38@gmail.com



● 特集

ローターアクトクラブとのコラボ企画

後援会会長 渡邊 綱夫

2022年11月12日(土)名古屋芸術大学芸大祭において、西キャンパスB・G棟テラス下にて、ローターアクトクラブの学生が、食料品配布を行いました。この活動は、大学側の学生支援チームの協力を得て、ローターアクトクラブの学生が自発的に企画・実行するものであります。後援会は配布のお手伝い・出資という形で支援を行いました。

ローターアクトクラブの学生・後援会理事・後援会サポートチームで配布しましたが、3年振りに開催された芸大祭での活動であったこともあり、準備した100セットをあっという間に配付することができました。

当日は、後援会サポートチームにお声をかけさせていただき、快く3名の方々が支援に駆け付け、理事の方々と朝早くから、今回初めてのローターアクトクラブの学生達と対面し、礼儀正しい学生の方々とすぐに打ち解け、仲良く活動をしながら交流を深める事が出来ました。

ローターアクトクラブの学生達からは、以下の感想がありました。

「後援会の方々と一緒に直接やりとりすることは初めてでしたが、人との繋がりを深く感じる事が出来ました。」

「配布品を受け取った学生から、感謝の言葉が返ってきたことで、自分たちの活動が誰かのためになっていることを実感できました。」

「これからの奉仕活動への原動力になりました。」

当日は、後援会で新しく作製した幟旗のお披露目を行いました。これにより、後援会がより親しみやすい団体として学生に周知することが出来たと実感しており、後援会としても今後の活動の励みになりました。



ローターアクトクラブとは？

18歳以上の若い人が専門的なスキルを育み、地域社会の方々と意見交換しながら、奉仕活動を行う団体です。

● 特集

理事研修

名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団
第10回定期演奏会の鑑賞のご報告

2022年9月15日(木)に、名古屋伏見に位置する三井住友海上しらかわホールで開催された名古屋芸術大学フィルハーモニー管弦楽団第10回定期演奏会を理事研修として鑑賞しました。

後援会からの参加者は10名、また会場にお越しになっていた後援会顧問の方々ともお会いし、ロビーにて集合写真を撮影しました。

演奏会は、オール・バッハ・プログラムで構成され、わたくしたちにも馴染みのある曲も演奏され、楽しく鑑賞する事が出来ました。参加された理事の方々からは、「名古屋芸術大学の演奏技術の高さに感動した。」「また聴きに來たいので、演奏会スケジュールを教えてください。」

などといった感想が寄せられました。

今後もさまざまなジャンルの演奏会が開催されます。今回の研修企画を機に、多くの方に大学行事に足をお運びいただき、学生への応援の輪を広げていけるよう、後援会としてそのきっかけ作りに力を注いで参ります。



特集

100円カレー提供

1回目を東キャンパス食堂にて2022年12月21日(水)16時～17時、2回目を西キャンパス食堂にて12月23日(金)16時～17時に行いました。

どちらも上限100食分とし、事前のチケット販売と当日の現金販売をしました。販売数は1回目74食、2回目103食となりました。

食事をした学生からは「有難うございます。美味しかったです!」との声を聞くことができ、手応えを感じることができました。また後援会の実施したアンケート結果から、7割近くの学生が「後援会を知っている」とわかりました。今後も学生を笑顔にする活動をしていきたいと思っています。皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



後援会室開室セレモニー

特集

後援会会長 渡邊綱夫

2023年3月6日(月)11時30分から12時の約30分の間、東キャンパス5号館6階におきまして後援会室の開室に伴いセレモニーを開催しました。



主賓として大学からは学長をはじめとする、後援会室の設置にご尽力いただいた地域・社会連携部の方々、東キャンパスの管財の方々を招き、後援会の理事の方々にご参加をいただき、和気あいあいと開室行事を行うことができました。



後援会室の片づけを地域・社会連携部の田中部長率いる部の方々の多大なる支援と、後援会室が理事の皆さんに有意義に使えるよう環境づくりをしていただいた大学の管財の方々への感謝の言葉を述べさせていただきました。

昨年度後援会室の設置を大学側に嘆願いただいた矢野章子監事の並々ならぬご尽力に敬意を払い、会長よりお礼の言葉と花束をお贈りしました。

また矢野章子監事より「この日を迎えられること、心よりお祝い申し上げます。これまでの学生支援活動に評価をいただき、大学構内に後援会室ができましたことを、たいへんうれしく思います。後援会室の開室にあたりご尽力いただきました大学関係者の皆様、後援会理事の方々に心より感謝申し上げます。今後はこの場を拠点に、お互いに声を掛け合い、助け合いながら学生支援を中心とした後援会活動を運営していただきますよう祈っております。」と温かいお声掛けを賜りました。

当日は、2023年2月25日(土)に開催された、卒業・修了制作展50回開催記念事業の名古屋芸術大学チャリティーオークションで、落札した名古屋芸術大学大学院の佐野七海さんの出品作品をお披露目しました。

綺麗になった後援会室に一際目立つ絵画が、今回のセレモニーに花を飾ってくださいました。

後援会室が出来上がり、新たな後援会

の歴史に残る第一歩として、来年度からは、本格的に後援会室が名古屋芸術大学後援会の本拠地となり、新会長をはじめとする後援会理事の皆さんの活動と憩いの場として、活用していただければよいと感じました。



芸大祭報告

芸大祭副実行委員長 増田 迅

新型コロナウイルスの影響で、本学芸大祭は2年間開催できず、2022年度の芸大祭は3年ぶりの開催となりました。



初の東西キャンパス合同開催で、テーマは「Re: 名喰 (リメイク)」。このテーマは、本学の学生が様々な社会情勢等から達成できなかった目標や活動を、新たに達成するための初めの一步を踏み出すきっかけにしたいと思ったからです。また、「名」は名古屋芸術大学を、「喰」は喰らいつく貪欲な姿勢を表し、内に秘めている力を存分に発揮しながら「再生する」、「作り直す」ことで価値の創造を実現し、芸術による教育や



研究の発展に寄与したいという意味を込めました。

メイン会場の西キャンパスの企画は、学生の作品

販売やワークショップなど、西キャンパスならではの出店が目白押しでした。東キャンパスの企画は、演奏系サークルの発表やアイドル研究会の発表等見ごたえのあるものとなりました。また学生への支援として、後援会のバックアップで「食料品配布」の企画を西キャンパスで行いました。今回模擬店では、新型コロナウイルス対策として飲食の出店は禁止とし、代わりにキッチンカーでの食事提供とさせていただきました。お客様も様々な食事を楽しんでいただきました。また、子ども向けの企画として、人間発達学部のゼミにも協



力していただきました。「こどもランド」というイベント内で、ふわふわドームやシャボン玉アートなど

多くの子どもたちに楽しんでいただけました。

芸大祭を運営する実行委員会は、コロナ禍の影響により「0」からのスタートとなりました。しかし我々は



これをポジティブに考え、引き継ぐべき箇所は引き継ぎ、それ以外は柵(しがらみ)を取り払い、新しく生まれ変わった芸大祭を創りあげようと奮起しました。例年より少ない人数で準備をすることになり、



それぞれにかかる負担が多い中、やり遂げることが出来ました。今回の芸大祭も、さらに有意義な物になるよう努めていきたいと思ひます。

末筆ではございますが、ご支援を賜りました後援会の皆様、運営のサポートいただいた教職員の皆様方、地域の方々に感謝を申し上げます。

末筆ではございますが、ご支援を賜りました後援会の皆様、運営のサポートいただいた教職員の皆様方、地域の方々に感謝を申し上げます。



学務部報告

キャリア支援探訪記

～小嘸「取りたい資格」より

名古屋芸術大学後援会の皆様には、日頃から本学の運営に多大なるご理解とご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

この度、学務部の報告をさせていただくことになったわけですが、私の主担当はキャリア支援でして、日頃より学生の皆さんの進路について相談を受けることが多いので、学生さんと接していて、特徴や印象に残っていることを物語風にお伝えさせていただきます。

1. 小嘸「取りたい資格」

顔面蒼白の学生さんが一人、事務室の前に佇んでいる。沈痛な面持ちのまま、銅像のように動かない。
「小原さん、そこに座って待ってて」思わず、声をかけた。

小原法子さん。芸術学部2年生で、進路に関する相談があるという。一瞬我に返ったものの、表情は暗いままで、近くの椅子に腰かけた。

彼女は、キャリアセンター主催の「キャリアアップ総合ゼミ」にも参加している、いわゆる「意識高い系」の学生さんで、普段からよく会話はするのだが、改めて相談があると言われると、こちらが身構えてしまう。

「で、相談というのは？」斜め向かいに座り、おそるおそる尋ねる。

「何か資格を取りたいなと考えているんですが、資格っていっぱいあるじゃないですかあ。多すぎて、何を勉強したらいいのかわかんなくなっちゃって、悩み過ぎて何日も寝てないんです・・・」

小原さんは真面目なのだ。
「将来は何を目指すんだっけ？」
「ゲーム会社のサウンドデザイナーを希望していますけど、募集人数は少ないし、人気の仕事だから難しそうだな、とは思ってて。それは無理でも、就職はしたいから、一般企業の事務職も視野に入れようかなと」

まだ2年生だが、小原さんは就職活動に向けた業界研究も始めていて、実にしっかりとしている学生さんなのです。

「一般企業の事務も視野に入れるんだったら、

簿記とかいいんじゃない？」

「簿記かあ。ちょうどこないだ、日比野君と話してたんですよえ・・・。3級取るか、2級取るかって」

日比野君とは、小原さんと同じ音楽領域の2年生で、彼もキャリアアップ総合ゼミの受講生だ。

「いいじゃん。簿記、挑戦してみれば？」

「いや～。でも、本当に意味あるのかなって」

「意味？」

「だって、簿記取ったら、就職できるんですか？絶対ですか？」

そんなわけないだろう！と心の中で叫ぶ私。3号館に駆け込みたい。防音室に籠って叫びたい。

「そだね～。絶対とは言えないけどね～」

ロコソラーレ風の相槌を打ちつつ、やるせない気分を泳がす。

「結局、何がいいんだろうって、そんなことを考えてたら、夜も寝れなくて・・・」小原さんの表情は再び沈んだ。

「芸術大学の学生さんが簿記を持っていたら、採用担当者は関心を持つと思うよ。ギャップ萌えってやつ？つまり、芸大生なのにビジネスのことも学んでるんだ～って好印象が生まれると思う」

「そうなんですな！やる気が出てきました！簿記3級って、ウルガモスみたいなものですか？」

「ウ、ウルガモス？」

「わりと入手しやすく、とっても活躍するポケモンです」

（うっ。ポケモンやったことない・・・！）

「ウ、ウルガモスね～。そだね～汗（・ω・）」

そだね～最強説。

「日比野君は、簿記3級が三和音で、2級がセブンスコードだって言っていました」

さすが、音楽領域の学生さんである。

「ところで、日比野君は、何を目指してるの？」

「落語家です。落語家になるために取っておいたら役立つ資格について、相談に来たいって言っていました」

「Σ（°Д°）フゥ!!？」

超高難度案件襲来。まあ、相談に来てくれる

だけいいのかも。

「ちなみに名前は・・・資格取亭極楽にするぞうです」
しかくにとっていごらく

おあとがよろしいようで。

※この物語は、フィクションです。

2. 就職活動と資格に関する随想

キャリアサポート室では、「就職資格取得支援講座」と題して、専任講師を招き、様々な資格の取得を支援する講座を実施しています。この講座を開催するにあたっての講師料や準備にかかる費用は、後援会費を使わせていただいております。感謝の念に堪えません。他大学の状況を見てみると、この類の講座は、受講生（つまり、学生の皆さん）に受講料を負担してもらうことが多く、大学が費用負担をするのは稀なようで、外部の方からは、非常に手厚い支援体制が整っていることに驚かれます。

右下の表は、昨年に実施した資格・検定に関するアンケートの結果です。本学の学生の皆さんを対象とし、158名の方から回答を得ました（複数回答可としました）。回答結果を集計し、皆さんの関心が高い資格・検定を10位まで並べています。

2022 就職支援資格取得講座 のご案内



日々、学生さんから相談を受けていると、「何の資格を取ったら就職に有利ですか？」と質問を受けることが増えてきました。新型コロナ禍以降、特に多くなっているように思います。

将来への不安・・・これは資格への関心が高まる大きな理由かなと考えますが、若い学生さんの世代からすると、資格や免許というのはゲームに出てくる「アイテム」に近い感覚なのかなと感じたりします。ゲームにおいては、新しいアイテムを入手するとプレイヤーの能力がアップして、有利に駒を進めることができるわけですが、残念ながら、現実世界では、資格を取っただけでは何も解決しません。

とはいえ、何かを学ぼうという姿勢はとても大切だと考えます。

昨今、「キャリア自律」が企業人事のキーワードになっています。これには、「生涯学習」「リカレント教育」「リスキリング」などの学び直しに関する言葉が付帯します。自身のキャリアを会社にゆだねるのではなく、自分で切り開いていくためには、自ら進んで学ぶ癖が付いていると良いわけです。そんな時代背景において、資格から発想して自身のキャリアを考えるというのも一つの手だと思えます。

キャリアサポート室では、世の中の動きに注目しながら、今後も「就職資格取得支援講座」を充実させていきたいと考えています。

<取りたい資格ランキング>

順位	資格・検定名	回答数
1	TOEIC Listening & Leading Test	98
2	色彩検定	86
3	Photoshopクリエイター能力認定試験	52
4	Illustratorクリエイター能力認定試験	49
5	日本漢字能力検定（漢検）	43
6	日商簿記検定	36
7	秘書検定	34
8	Webクリエイター能力認定試験	30
9	公認心理師	28
10	語彙・読解力検定	22

学務部 学生支援チーム
 チームリーダー
 水口 洋輔

学生支援
チーム

企業から求められる芸大生の力

新型コロナ禍の発生以降、企業の採用意欲は低迷していましたが、2023年3月卒業生を対象とした求人倍率は、ようやく回復の兆しを見せました。リクルートワークス研究所の「第39回 ワークス大卒求人倍率調査（2023年卒）」によると、新型コロナ禍の影響を受ける前の新卒求人倍率（2020年3月卒）は1.83、以降は1.53（2021年3月卒）、1.50（2022年3月卒）と続き、求人数は激減しました。しかし、2023年3月卒業生を対象とした求人倍率は、1.58となり、全体として企業の採用意欲が回復しつつあることを示しています。名古屋芸術大学の学生の皆さんの就職活動の状況も、過去2年間と比較すれば、早い段階から内定を得る方が多かったように思います。とはいえ、芸術系専門職の求人が元々多くはないことや、世界的な経済情勢の不透明さもあって、芸大生の就職活動は平坦な道ではないことも確かです。

このような環境の中、学生支援チームでは、求人やインターンシップの選考枠を獲得するため、様々な企業を訪問し、人事採用担当者との関係を密にするよう努めています。商工会議所等が主催する、企業と大学の名刺交換会等も、徐々に対面での実施に戻りつつあることから、積極的に参加して企業人事との情報交換を行うようにしています。そんな中、最近「芸大生を採用したい」という、企業のニーズが高まっていることを感じます。そして、その対象職種が必ずしも芸術系専門職でないことに驚かされます。本学には様々なコースがあり、それぞれの専門性を活かせる就職先として、想定される職種がいくつもあります。いくつかの例でいえば、グラフィックデザイナー、イラストレーター、造形作家、舞台の音響・照明演出、サウンドクリエイター等です。しかし、私が企業の採用担当者と話をする中で、「芸大生を採用したい」というニーズは、これらの専門職を対象としたものにとどまらず、事務系総合職（いわゆる一般文系大学の学生さんが目指すような企業の管理職候補社員）、販売職、営業職、機械設計職、プログラマー、システムエンジニア等での採用が想定されています。大学での学びを直接的に活かせる職種に加え、ひとたび目を外に向ければ、芸大生が活躍できる世界はたくさんあるのです。

では、なぜ企業にこのようなニーズがあるのでしょうか。企業の人事採用担当者に話を聞くと、芸大生を採用したいという背景には、「勘が鋭い（仕

事の呑み込みが早い）」「入社後の成長スピードが速い」「礼儀正しい」「独自の意見を持っている」といった特徴を好感していることがあるようです。

我が国の新卒一括採用は、一部の専門職を除けば基本的にポテンシャル重視で、入社後に人材を育成していくというのが、主流です。この点で、早く成長して会社に貢献してくれる人材というのは、とても貴重なのでしょう。本学の学生の皆さんは、領域を問わず、日々学びながら作品の完成を目指しているわけであり、これを仕事に置き換えると、アウトプット（成果）を意識して物事に取り組むプロセスに類似しています。芸大生が入社後に早い段階で活躍できる理由の一つだと思います。

また、ビジネスの世界では古くから「人材の多様性（ダイバーシティ）」の重要性が繰り返し指摘されています。最近の我が国においては、労働力人口の不足から、ダイバーシティということが性別や年齢という観点から語られることが多いのですが、これはどちらかというと、「働き方の多様性」に重きが置かれた文脈の中にあります。しかし、本来のダイバーシティとは、異なる意見を持った人達が集まることで、組織が硬直的になることを避け、創造的な課題解決によって利益をもたらすことにその意義があります。芸術的感性とは、物事を多面的に解釈することによって独自の視点を持ち、表現に落とし込む力のことだと思いますので、会社組織において芸大生というのは、特徴ある人材という点で、希少な存在になるのだらうと考えます。

カナダのマギル大学教授のヘンリー・ミンツバーグ博士は、企業経営とは、「アート」「サイエンス」「クラフト」の3つが混ざり合ったものであると主張しています。これは私なりの解釈ではありますが、この3つを、組織における人材に置き換えて説明すると、「アート」は創造的な発想力を持った人材、「サイエンス」は科学的視点を持った管理能力のある人材、「クラフト」は実務能力に長けた職人的人材、ということになります。我が国においては、高度経済成長を経て現在に至るまで、「サイエンス」型または「クラフト」型の人材は充実していたものの、「アート」型人材は不足してきたとも言われています。欧米が起こした産業に追随する形で、製造業を中心として世界的に存在感を高めてきたものの、



バブル経済の崩壊以降、日本経済には閉塞感が漂っています。そんな中、「アート」思考を持った芸大生は、職種を問わず、これからビジネスの世界でさらに必要とされていくのではないのでしょうか。

ただし、重要なことがあります。何事もバランスが求められるということです。ビジネスの世界においては、単に「アート」思考を持っているだけでは足りず、事業や業務におけるルールを理解も必要になってきます。つまり、上述の例でいえば、「サイエンス」的、または「クラフト」的な考え方も知っておく必要があるのです。

このような時代背景の中、キャリアセンターでは、施策方針として「キャリア二刀流」を掲げ、名古

名古屋芸術大学後援会の皆様には、日頃から学生支援に多大なるご理解とご支援をいただき深く感謝申し上げます。

さて、光栄なことに本特集「学生支援チームからの報告」につきまして、今回で2020年3月、2021年3月に続く3度目の執筆となります。あらためて過去2度の執筆を確認すると、冒頭に新型コロナウイルスに関することを書かしていただきました。そして3度目となる今回ですが、「ようやく新型コロナウイルスも終息し」と書けることを願っておりましたが、これを書いている2023年1月時点では、その願いは叶わず第8波となっている状況です。

このような状況ですが、令和4年度は2年間実施出来なかった「新入生歓迎イベント」「芸大祭」など実施し、少しずつ以前の賑わいを取り戻しつつあります。芸大祭については、初となる東西キャンパス共催実施となりました。様々な学部、領域で学んでいる学生達が、自分達の得意なことで協力し、規模は縮小となりましたが、多くの方に来場いただきました。久しぶりにキャンパスに明るさ、活気が溢れました。現在も芸大祭の運営で中心となりました実行委員のメンバーが、新入生歓迎のイベントを企画検討しています。名古屋芸術大学の新たな歴史を、少しずつ刻んでいることを目の当たりにしております。

長引く新型コロナウイルスは、家計の急変やアルバイトにおけるトラブル、心身の不調にも影響し、大学への相談も増えております。学務部学生支援チームではこのような相談により添えるように「NUA 全方位型学生サポート」というプロジェクトを立ち上げて、電話連絡やメール、対面相談を行っております。

コロナ発生前の状況にはまだ程遠いですが、少しずつコロナに対応した行事を実施し学生生活の充実に努めております。

学生の就職活動についても、コロナに対応した

屋芸術大学の学生さんが学んでいる芸術の専門力に加え、経営や法律の知識、産業社会の理解、リスク管理などのビジネス力を備えることができるよう、様々な講座を開催しています。また、学務部が、簿記、経済学、民法、労務論、起業論等のビジネス系正規科目も充実させています。これらの体制の下、これからも、学生の皆さんの「夢の実現」を後押しできるように、学生支援チームの職員一同、日々研鑽を積んで参りますので、後援会の皆様におかれましては、引き続きのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学務部 学生支援チーム
チームリーダー 水口洋輔

活動が定着しつつあるように感じます。その代表的なものがWebを活用した採用です。Web説明会、Webインターシップ、Web面接などは今では当たり前のように実施されています。ただ、人事担当の方や学生から話を伺うと、Webによる採用が実施されるようになって本質的な部分は変わっていないと感じています。2006年に経済産業省は「社会人基礎力」というものを提唱しました。細かい説明は割愛させていただきますが、この「社会人基礎力」とは、3つの能力（「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで動く力」）と12の能力要素から構成されているもので、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力としております。

この社会人基礎力ですが、今から17年前に提唱されたものですが、現在においても必要なものばかりです。先日学生との話の中で、こんな話がありました。「コロナ禍で思ったような活動が出来なかったので、エントリーシートの『学生時代に力を入れたこと』が書けません」というものです。ちょうど同じころ、企業の方からこんな話がありました。「コロナ禍でもその状況に対応して様々な活動している学生がいる。このような学生は魅力的に見える」というものです。

社会人基礎力の3つの能力の「前に踏み出す力」は「一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力」と定義されています。名古屋芸術大学の学生達は、失敗を恐れず様々なことに挑戦し、社会に貢献してほしいと願っております。

学務部学生支援チームも教育後援会様の支援をいただきながら、挑戦する学生をサポートできるように努力してまいります。



学務部 学生支援チーム
チームリーダー 伊藤元房

親の想い

充実した日々に感謝

芸術学部 芸術学科 デザイン領域
ビジュアルデザインコース
4年生 父 池田 和由

今期四年生となった娘は無事に就職活動を終え、今は卒業制作展の作品作りに試行錯誤する日々を送っている。

娘が名古屋芸術大学への入学を志してからの日々を振り返ってみると、オープンキャンパスへの同行に始まり、入試の送迎、毎年のレビュー展等の展示会の観覧、そして後援会活動への参加と、親としても何かと大学に係わって来たと思う。

特に展示会に関しては、一般の大学生の親では経験することのない貴重な体験であった。作品作りに懸命に取り組む娘を遠くから、時に近くから応援して来たこと、娘から伝え聞くクラスメイトの取り組みを踏まえて作品を鑑賞したことには、芸術大学の特徴的な部分を満喫させていただいたと感じている。

また後援会活動では仕事の都合で限定的な対応しか出来ない私を快く仲間に迎えていただいた上、微力ながら学生支援にも係らせていただくなど、これまでにPTA活動に参加したことのない私にとって新鮮な体験をすることが出来た。

昔からイラストを描くことが好きだったとは言え、美術部のない高校で趣味として楽しんでいた娘が名古屋芸術大学に進学したいと言って来た時は、入学出来るのか、入学出来たとしても専門的かつ総合的な講義に対応出来るのかと正直不安も感じたが、今、生き生きと大学に通う娘の姿を見て、親娘ともども充実した日々を過ごせていただけたなと感謝している。



親の想い

芸術学部 芸術学科 芸術教養領域
リベラルアーツコース
4年生 母 上田 康子

2019年4月、大学生になった喜びで奈良から北名古屋市の名古屋芸術大学へ、すでに東京で就職をしている娘も駆けつけて息子の入学を喜びました。



芸術教養の勉強、専門の先生方と出会い、刺激の多い毎日を過ごしていたようです。アルバイトでお金を稼ぐ大変さ、サークルで新しい友人との出会い、充実した4年間を過ごした中、今卒業が近づき成長した我が子を見てとてもうれしく思います。世界中が想像もしていなかったコロナウイルスと戦い、私も経験したことのない毎日でした。それぞれが孤独を知り、普通に会い、話し、顔が見られていたことの大切さを知りました。

コロナ禍の中での学生生活でしたが、多くの先生方と出会い刺激影響を受け、アルバイトでは社会の大人の方と共に働き指導をいただき、友人と楽しく過ごした時間が将来の困難に打ち勝つ力となること、そして自分の幸せを見つける楽しさになることを願います。

名古屋芸術大学に関わって下さいました先生方、全ての方に感謝申し上げますとともに、私はこれからも、息子の応援隊として陰ながら見守って行くことを生きがいにしたいと思っております。

子の想い

学生としての戒め

芸術学部 芸術学科 美術領域 洋画コース
3年生 杉山 莞爾

芸術の学び舎の門をくぐる身であれば、自分の個性や主張を押し通すよりも、勉強やデッサン、芸術鑑賞といった基礎を詰め込むことが大事だという事に、身をもって気付かされた3年間でした。



昨今はインターネットの発達で、やる気さえあれば誰でもチャンスが回って来る時代です。作品投稿のプラットフォームも充実している中で、果たして芸術を学ぶ学生になる事に意味はあるのか?と何度も考えていました。

しかし裏を返せば、生半可な作品は日の目すら見られません。そして過酷な世界で生き延びる術は、弱肉強食ではなく適者生存である事を思い出しました。ジョン・ウォーターズも似たような事を仰っていましたが、我々が持っている最大の武器は、学生という称号を以た正攻法で切り込める事にあると思います。「型破り」という言葉は、全ての型を会得した人間が型を破ってこそ許される名乗りだといいますが、我々はそれになり得るチャンスがあるのです。

詰め込んだ知識を自分なりに反芻し、制作を積み上げる。基礎を積み、自分の持っている個性というのは知らぬ間に磨かれていき、「自分の作品」が出来上がるのではないのでしょうか。面倒なことばかりですが、偉そうな事を言わず、奇を衒わず、沢山の経験を取り入れて行こうと自分に言い聞かせています。

前述したようなアウトサイダーに抜かされてばかりでは、我々は立つ瀬がありません。肩書きに胡座をかくだけのご身分だと世間に思われても良いのなら構いませんが、私は嫌です。芸術なんて高慢ちきなディレタント気取り共の自己満足、とトマトスープの紙皿にされるくらいなら、正攻法で彼らの後ろから斬りかかる気骨で行きたいです。

きっと見えるはずだ

芸術学部 芸術学科 芸術教養領域
リベラルアーツコース 3年生
丹羽 勇貴

高校では、将来が全く考えられなくて、特段したい事もなくて、進路決めは迷走した。

理系クラスに所属していた僕は、工学部→心理学科→経営学部→工学部???

最終的にここ「芸術創造・リベラルアーツ」に来た。

何ものかわからないところが魅力で、今までは見つけられなかった何かを見つけられそうな気がして、期待を膨らませて、輝く未知の大学生活を始めるはずだった。

現実には、入学式も、オリエンテーションも、サークルもなく、人とつながりが希薄になった。輝きなんてなくて、ぼんやり薄暗い鉛色のただ広い場所、僕にとって大学はそんな場所だった。僕はコロナの穴にはまり込んだ。誰のせいでもないけど。

他人頼みだったのかな。

全てが「こんなもんか…」の毎日。

諦めて惰性で就活を始めた。

「大学生活もさほどやってないのに、もう就活かよ…」

しかし今秋、授業の関係で、オーストラリアの学生を大学祭に案内する機会をもらった。

僕は片言以下のコミュニケーションしかとれなかった。それが情けなかった。

「これじゃだめだ」初めて僕の気持ちが変わった。ちょっと頑張ってみようかな、という気持ちを先生が押しつけて、僕は今、留学を考えている。実現できるかまだ分からないけれど、短期留学からでも始めてみるつもりだ。

何もしないで終わってしまう大学生活におさらばだ。

僕は歩き出す!



【就活最前線】

私

が就職内定をもらうまで

芸術学部 芸術学科 音楽領域 声優アクティングコース
4年生 天谷 光里

新たな自分の可能性を求めて。未踏の分野に足を踏み入れようと3年生の春休みから勉強や研究に熱心に打ち込み着々と準備を進めて来ましたが、挑んだ試験や面接に落ち続けてしまうなど現実は思い通りにいかず、このままでは自分は何者にもなれないのではないかという暗い気持ちと同時に、卒業してもどこにも行く当てが無い、将来が見えないことの焦燥感に駆られていました。そんな心持ちを抱えたままプロキャリアコンサルタントの方に相談をさせていただき、合同企業説明会に参加するなど行動し続けていくうちに、今までどんなことをすれば自分は充実していると思えたかを考えるようになりました。

私は高校生の時に演劇と出会い、進学後も本格的に演技を学べる「声優アクティングコース」に所属し、修了公演や卒業公演で舞台上に立たせていただきました。受講していく中で自分はプロを本気で目指す心意気が持てないと判断し就職活動を始めましたが、そもそも何故私は“演技をすることが好きになったのか”ということを一歩思い

芸術学部 芸術学科 美術領域 洋画コース

4年生 大島 稜太

10月の終わり、私は名古屋の印刷会社に内定をいただきました。この就職活動を通して、目標を達成するために必要な事を自分なりに見つけ出すことができたのではないかと考えています。必要な事と言っても決して劇的な事ではありませんが、この執筆を通して、この先行き詰まった方や何から手を付ければ良いか分からない方の歩調を少し整えるくらいの小さな役目を果たすことができれば幸いです。

私は思索することを欠かさず行ってきました。疑問を疑問のまま留めず自分なりに結論を導き出すことで、この先の挑戦に向けて成功のきっかけを増やすようにしました。ですが、それだけでは



思考が偏ってしまいます。なので毎日デザイナーの友人にポートフォリオの添削をしてもらい、キャリアサポートやハローワークの方々に履歴書の添削や模擬面接をしてもらうことで、客観的な評価を常に貰うようにしました。客観的

返すと、自分の演技を観て笑って楽しんで下さるお客様がいるからこそ、私も喜びを感じられていたということに気がつきました。そして演技以外にもお客様を楽しませられる職業はあると思立ち、大学の求人情報から企業を選び内定をいただくことが出来ました。その際に公演での人々に感動を与えた経験談を活かすことができたのは、コースの皆で一致団結して真剣に取り組んだ日々の賜物だと思います。



今回の就職活動で、審査に通ることは無かったものの自分の興味がある分野に挑戦したことは、今では貴重な経験で私の強みであると実感しています。大学で学んできたことを活かせる職業に就くことも理想ですが、就職を機に新たな業界に踏み出すことも私は素晴らしいことだと思います。拙い文章ではありますが、ここまでお読みいただいた皆様のご健闘を心よりお祈りしております。

(テーマパーク内定)

な評価というのは何よりも信頼できるデータになります。もちろん誰でも良いわけではありませんが、この先就職活動を進めていく上で活用できるものは最大限活用していく事をお勧めします。私自身、就職活動を始めたのが3年の2月と非常に遅く、加えて洋画コースに所属していた事からデザインの知識が全く無い状態からのスタートでした。そんな自分が独学で目標を達成することは不可能だと感じたので、周りの意見や情報を取り入れていながら5月にポートフォリオと履歴書を完成させて、6月から周りと同じ足並みを揃えて就職活動を本格的に始めることができました。

今にしてみれば私の就職活動はとても環境に恵まれていました。初めは周りの評価に落ち込んでしまいそうで意見を求めることが出来ず、何をすればいいか迷っていました。しかし勇気を振り絞って周りに意見を求めてから、嫌だった就職活動の中に楽しさを見出せるようになっていました。この先上手くいかなくて辛い時や、何をすればいいか分からず不安になる瞬間というのは皆平等に必ず訪れます。そんな時は深呼吸して、自分のすべきことを冷静に分析しながら、歩調を徐々に整えていきましょう。

(印刷メーカー内定)

芸術学部 芸術学科 デザイン領域

テキストスタイルデザインコース

4年生 近藤 悠香



春から自動車のCMFデザイナーとして働きます。CMFはユーザーの持つ価値観やライフスタイルをもとにコンセプトを立て、それに合う自動車の色、素材をコーディネートする仕事です。といっても…実は3年生になるまでこの職

業を知りませんでした。ある時、教授からこんな仕事があると紹介されて、夏休みに初めて自動車会社のインターンシップに参加しました。五日間でコンセプトを熟考し、Photoshopを駆使して車の内外装をコーディネートし、最終日にプレゼンしました。この機会を通してCMFの奥深さと面白さを体感しました。

3年生の冬に参加したインターンシップを経て内定を頂きましたが、振り返ってみると道のりは険しいものでした。こうならないために心がけるべきことを3点挙げます。

人間発達学部 子ども発達学科

4年生 高木 祥江

私は愛知県から小学校教諭の内定をいただきました。大学では、小学校教諭免許のほか、保育士資格と幼稚園教諭免許も取得しましたが、私は入学当初から卒業後は小学校教諭になりたいと考えていました。目指したいものがはっきりしていたため、自分の中での長期的な目標はかなり立てやすく、そうした面も今回の内定に繋がっていたように思います。また、基本的なことではありますが、大学で受講する講義一つ一つに真摯に取り組んだことも自分の助けになっていました。特に、1年次に地域活動では実際の小学校現場を知り、2年次3年次に、教育実習をはじめとする免許に必要な様々な実習を経て、現場の先生方の姿から配慮や支援の方法、環境構成の重要性を学び、実際に子どもと関わることで、その難しさを知りました。

4年次には就職活動が本格化し、教員採用試験の勉強に本腰を入れ始めました。大学で開かれる勉強会に参加し、面接や小論文の練習をしながら筆記対策を進めました。筆記対策は、私が周りと一緒に勉強するほうが身につくタイプだったので、勉強会以外でも大学で同じく教職を目指す学生と勉強したり、家族を巻き込んだり

1つ目は、徹底的な自分の作風の分析です。正直、インターンシップや作品を説明する面接は緊張します。自分の作風はどんなもので、自分の軸とは何かが分かっているならば、落ち着いて臨めます。ポートフォリオをまとめる時にはそんなことを押さえながら、これまでの作品を振り返ってみましょう。

2つ目は、他者の意見を聞いて学び続けることです。インターンシップ中は社員さんだけでなく、参加している他の学生にも意見を聞きましょう。刺激にもなり、新たな発想が生まれるチャンスにもなります。また、制作物やポートフォリオは他コースの教授にも積極的に見せてアドバイスをもらいましょう。名芸の先生方は親切なのでどんどん聞きに行きましょう！

3つ目は、全力でプレゼンすることです。インターンシップは短期間で行われるため、制作物が納得のいかない出来になってしまうこともあります。しかし、プレゼンテーションでは自信ありげに全力で話しましょう。割り切る強さも必要です。

自分から積極的に行動すれば、必ず結果はついてきます。これまで学んできたことや自分の作品に誇りを持って頑張ってください！

(自動車メーカー内定)

しながら行いました。また、YouTubeの対策動画やスマホアプリも積極的に活用しました。どんなものでも受験勉強は長期戦ですから、途中で心が折れることがないように、無理なく頑張れる方法の模索は必要だと思います。



これから就職活動をされる方の中には、“何を目指すのか”という部分が決まっていないという方がいるかもしれません。まずは、自分と向き合う時間を大切にしてほしいです。自分は何がしたいのか、どう生きたいのかを言語化できれば、自己PRや志望動機にも繋がります。また、色々なことを体験することも大切にしてほしいです。実際に、私は子どもや学校現場に関わるボランティア活動やデンバー短期留学、ハワイ研修といった活動から多くの刺激を受けました。在学生の皆さんも、自分のできることから徐々に始めてみてください。そして、周りの人への感謝を忘れず、夢をつかんでください！

(小学校内定)



第3回後援会賞授与式

2023年2月24日(金)午後3時30分より、西キャンパスB棟2階大講義室において、第50回名古屋芸術大学卒業・修了制作展優秀賞、第26回ブライトン大学賞授与式が執り行われ、第3回名古屋芸術大学後援会賞の授与式も同時に行われました。表彰式には渡邊綱夫会長はじめ役員・理事9名が出席しました。



第3回後援会賞の栄誉に輝いたのは、次の4名の方々です。

- ・山本 史歩子「花にささやく」
日本画コース 4年生
- ・杉山 晃生「線と時間」
イラストレーションコース 4年生
- ・米島 颯良「家事分担を促進するデザイン提案」
インダストリアル&セラミックデザインコース 4年生
- ・張 陽「EROSION」
同時代表現研究 大学院2年生

受賞者の皆さまには、後援会から表彰状と副賞(5千円相当のクオカード)が贈られました。

表彰式後の写真撮影で、渡邊会長から第3回後援会賞受賞者の皆さんにお祝いの言葉が伝えられました。「本日はおめでとうございます。名古屋芸術大学で培った力を発揮し、今後の活躍を期待しています。後援会はこれからも皆さまを応援しています。」

最優秀賞、北名古屋市長賞、北名古屋市教育委員会賞の他にも企業賞の受賞者が発表されました。

(卒展・修了制作展後援会審査委員会)



賞名	領域	コース	学生名	作品タイトル
優秀賞	美術	日本画	新井 謙成	原体験
	美術	日本画	早瀬 葵	ここから
	美術	洋画	大矢 龍洋	HUMAN
	美術	洋画	山本 将吾	smooth stone
	美術	アートクリエイター	榎木由美	生まれた椅子
	美術	アートクリエイター	田村くるみ	「ひととき/レード」 「ひとこと/ポンボーン」 【ゆらめく/フィーネ】
	デザイン	ビジュアルデザイン	ジョンソン ミシェル	Music visualize
	デザイン	ビジュアルデザイン	高島 優香	もしも左右が無いとしたら、
	デザイン	ビジュアルデザイン	渡部 航介	流動と偶然
	デザイン	イラストレーション	曾我部晴菜	mass attack
	デザイン	メディアデザイン	鈴木 朱音	OddCats
	デザイン	メディアデザイン	宮田 果奈	NOA's ARK
	デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	腰本 彩花	FEMINISM in Gender
	デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	増田 千紘	U. COLOR
	デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	陸 小燕	架空の惑星 ニヒルの世界
	デザイン	インダストリアル&セラミックデザイン	都筑大由樹	ORIGIN
	デザイン	カーデザイン	増田 理希	7つの Yori Michi
	デザイン	スペースデザイン	杉浦 泰徳	Kintoun Kits
	デザイン	スペースデザイン	高岡 卓史	rene project
	デザイン	スペースデザイン	村瀬奈々子	fall tree
	デザイン	ライフスタイルデザイン	宮崎 千穂	心れ在る一存在を確信するとき
	デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	川中 苺恵	言葉の情景
	デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	奥岡 夢乃	桃渚郷
	デザイン	テキスタイルデザイン	近藤 悠香	海の表情
	デザイン	文芸・ライティング	新藤 和幸	シロ×クロ=パディー!
	芸術教養	リベラルアーツ	平山 滯愛	猫キャラクターグッズ分析から見るキャラクターマーケティング戦略(コミュニケーション)
	芸術教養	リベラルアーツ	坂 穂澄	絵巻鑑賞における解説文の必要性
	芸術教養	リベラルアーツ	奥田 愛	「ミュージカル『テニスの王子様』」からみる「2.5次元ミュージカル」の意義とは

北名古屋市長賞	美術	洋画	大矢 龍洋	HUMAN
北名古屋市長賞	デザイン	スペースデザイン	高岡 卓史	rene project
最優秀賞	デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	奥岡 夢乃	桃渚郷

大学院修了制作展 優秀賞	大学院	美術研究科 美術専攻 同時代表現研究	宇留野 圭	17の部屋・耳鳴り
	大学院	デザイン研究科 デザイン専攻 メディアデザイン	霍 然	あなのために

名古屋芸術大学後援会賞	大学院	美術研究科 美術専攻 同時代表現研究	張 陽	EROSION
	美術	日本画	山本史歩子	花にささやく
名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会賞	デザイン	イラストレーション	杉山 晃生	線と時間
	デザイン	インダストリアル&セラミックデザイン	米島 颯良	家事分担を促進するデザイン提案
CBCテレビ賞	美術	アートクリエイター	金城 琉斗	生まれた椅子
	デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	奥岡 夢乃	桃渚郷
画社ウィーナス賞	大学院	美術研究科 美術専攻 同時代表現研究	鏡 大地	Labor/Work/Action
	デザイン	ビジュアルデザイン	高島 優香	もしも左右が無いとしたら、
ギャラリールーカショップ賞	美術	日本画	塩澤由唯香	肉境遊戯
	美術	洋画	石川奈那子	割れ
後藤紙店賞	美術	アートクリエイター	齋藤 勇介	命のファンファーレ
	美術	日本画	鈴木 彩香	まったりmonkeys
共栄食品 学生食堂賞	美術	洋画	大矢 龍洋	HUMAN
	美術	アートクリエイター	金城 琉斗	生まれた椅子
美濃紙芸賞	デザイン	ライフスタイルデザイン	滝沢 陽菜	メント・モノ
	美術	日本画	中村安砂美	深奥
立風賞	美術	日本画	早瀬 葵	ここから
	美術	洋画	大矢 龍洋	HUMAN
MOZOワンダーシティ賞	大学院	美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	李 妹霖	乗風騎龍図
	デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	奥岡 夢乃	桃渚郷
共栄食品 学生食堂賞	芸術教養	リベラルアーツ	南 隆之介	テクノロジーと芸術表現の可能性 新作展を開催するには能なるのか
	デザイン	テキスタイルデザイン	江口 桃世	桃渚郷
美濃紙芸賞	大学院	美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	李 妹霖	乗風騎龍図
	美術	日本画	中村安砂美	深奥
ギャラリールーカショップ賞	デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	川中 苺恵	言葉の情景
	美術	日本画	鈴木 彩香	まったりmonkeys
立風賞	大学院	美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	安藤 祐美	終焉点、廻る
	美術	アートクリエイター	金城 琉斗	生まれた椅子
MOZOワンダーシティ賞	デザイン	テキスタイルデザイン	小笠原 希	いろいろなもむし
	デザイン	イラストレーション	杉山 晃生	線と時間
MOZOワンダーシティ賞	デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	奥岡 夢乃	桃渚郷
	デザイン	テキスタイルデザイン	江口 桃世	桃渚郷
MOZOワンダーシティ賞	デザイン	イラストレーション	杉山 晃生	線と時間

名古屋芸大展出品	美術	日本画	中村安砂美	深奥
	美術	日本画	早瀬 葵	ここから
	美術	洋画	山本 将吾	smooth stone
	美術	アートクリエイター	金城 琉斗	生まれた椅子
	美術	アートクリエイター	田村くるみ	「ひととき/レード」 「ひとこと/ポンボーン」 【ゆらめく/フィーネ】
	美術	アートクリエイター	新川 未悠	山にふれる方法
	デザイン	ビジュアルデザイン	ジョンソン ミシェル	Music visualize
	デザイン	ビジュアルデザイン	渡部 航介	流動と偶然
	デザイン	イラストレーション	曾我部晴菜	mass attack
	デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	陸 小燕	架空の惑星 ニヒルの世界
	デザイン	スペースデザイン	高岡 卓史	rene project
	デザイン	ライフスタイルデザイン	宮崎 千穂	心れ在る一存在を確信するとき
	デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	川中 苺恵	言葉の情景
	デザイン	テキスタイルデザイン	石井 芳	スターズプリングル・ドーナツの宇宙旅行
	大学院美術研究科	美術研究科 美術専攻 同時代表現研究	宇留野 圭	17の部屋・耳鳴り
大学院美術研究科	美術研究科 美術専攻 同時代表現研究	中崎 由梨	Seen from both sides	
大学院デザイン研究科	デザイン研究科 デザイン専攻 ビジュアルデザイン研究	川浦 真歩	Visaga-顔-	

26th

2022年度 第26回ブライトン大学賞授与式

2023年2月24日(金)、西キャンパスB棟大講義室にて「第50回名古屋芸術大学卒業・修了制作展優秀賞 第26回ブライトン大学賞授与式」が開催されました。ブライトン賞は、本学の学術交流協定大学であるイギリス ブライトン大学より、学部生の卒業制作展の作品に授与される名誉ある賞です。変化の早い時代の中で、長きに亘りお互いの卒業生の作品を評価し合う関係を築いてきたことは、本学の誇るべき歴史です。先生方、卒業生の方々のこれまでの功績と後援会の皆さまの支援により、今年も無事に授与式を迎えることができたこと、改めて感謝申し上げます。

作品の審査は、ブライトン大学アート&メディア学部教授のDr. Caterina Radvan氏と講師のJeremy Radvan氏が引き受けてくださいました。2019年度までは、イギリスから審査員の先生をお迎えしていましたが、残念ながら今年も、審査員は来日することができませんでした。審査は、美術、デザイン、芸術教養の領域・コースから推薦された作品の画像、解説、推薦文を共有し、遠隔で行われました。

授賞式は審査員からの心温かく未来への希望にあふれた卒業生への祝辞で始まり、ノミネートされた31作品の中から、入賞作品10点が発表されました。

グランプリを受賞したのは、「irene project」(デザイン領域スペースデザインコース高岡卓史)です。高岡さんは受賞にあたり、喜びの声を寄せてくださいました。



この度ブライトン大学賞、グランプリを受賞させていただきました。スペースデザインコースの高岡卓史です。このような賞を頂けて誠に光栄に思います。「家具×音楽」をテーマとして掲げ、1年間取り組みました。このような賞を頂けたのも指導して下さった教授方、木工の師匠、楽団の仲間たち、多くの方が支えて下さったからです。技術面でも精神面でも強くなれた、素晴らしい卒展でした。これからも初心を忘れず、多くのクライアントを幸せにするデザインを届けたいと思っています。ありがとうございました。



遠隔審査では作品に添えられた資料は膨大な量となり、審査は大変な作業であったと想像します。短時間で審査をして下さったブライトン大学の先生に、改めて感謝申し上げます。来年こそは、ブライトン大学から審査員をお迎えし、ブライトン大学賞授与式を祝えることを心から期待します。

以下、受賞者と講評です。



<総評>

「今年度のノミネート作品を審査させていただきました。光栄に存じます。今回の応募作品は非常にレベルが高く、選考は困難を極めました。受賞者の皆さま、卒業生・修了生の皆さまにお祝いを申し上げますとともに、今後のご活躍をお祈りいたします。」



賞	領域・コース	氏名	作品名
グランプリ	デザイン領域スペースデザイン	高岡 卓史	irene project
優秀賞	デザイン領域スペースデザイン	杉浦 泰偲	Kintoun Kits
奨励賞	美術領域アートクリエイター (陶芸・ガラス)	櫻木亜由美	たゆたうなかで
	デザイン領域インダストリアル&セラミックデザイン	都筑大由樹	ORIGIN
佳作	美術領域日本画	手塚明日香	ー0八
	美術領域アートクリエイター (コミュニケーションアート)	金城 琉斗	生まれた椅子
	デザイン領域メディアコミュニケーションデザイン	増田 千紘	U. COLOR
	デザイン領域イラストレーション	水野 颯太	かべあと
	デザイン領域メタル&ジュエリーデザイン	奥岡 夢乃	桃源郷
	デザイン領域ライフスタイルデザイン	宮崎 千穂	ふれ在る



名古屋芸術大学賞

2022年6月、名古屋芸術大学と学術交流協定を締結しているイギリス・ブライトン大学アート&メディア学部の卒業作品展“Brighton Summer Shows '22”における名古屋芸術大学賞の優秀作品の審査及び授与を行いました。一昨年、昨年に引き続き、現地渡航はできず遠隔での審査となり、審査員はデザイン領域の後藤規文教授、美術領域の田村友一郎准教授に依頼しました。以下は、審査を担当した田村准教授による総評（一部抜粋）です。

コロナ禍によるオンライン審査も今年で3年目となり、作品のオンライン展開がある種、作品のアーカイヴとして機能するなど、そこかしこに事態を好転させるスキルが醸成されていたことは何よりの収穫だとも思えます。ノミネート作品は昨年、一昨年に多かったコロナに関わるものから、

個人の物語へと変遷していったことが興味深く映りました。どの作品にもしっかりとしたりサーチの軌跡が伺え、作品自体もそれらに裏支えされるように非常にクオリティが高いものとなっていました。

アート&メディア学部には、17のコースがありますが、そこから11作品がノミネートされ、6作品が選考されました。受賞作品は以下のとおりです。作品は、ウェブサイト上にアーカイヴされていますので、ぜひ“Brighton Summer Shows '22” “School of Art & Media BA show”で検索してください。また、後藤教授及び田村准教授による講評及び受賞者のコメントは、本学のサイトに掲載されておりますので、詳しくはそちらをご覧ください。https://www.nua.ac.jp/info/detail/_graduate_show_22.html

賞	氏名	コース	作品名または作品ウェブサイト
グランプリ	Imogen Donegan	Illustration / イラストレーション	https://exhibitions.brighton.ac.uk/students/imogen-donegan/
優秀賞	Jin Yu	Graphic Design / グラフィックデザイン	"Oh I see a horse, but I do not see horseness" https://exhibitions.brighton.ac.uk/students/jin-yu/
優秀賞	Shaun Yates	3D Design and Craft / 3Dデザイン&クラフト	"Wind Farm:Reimagining Rampion II" https://exhibitions.brighton.ac.uk/students/shaun-yates/
奨励賞	Michaela Davies	Moving Image / 映像	8-minute film "Mo?iut?" https://www.youtube.com/watch?v=l2TN7ZOdlao
	Ellie Pike	Photography / 写真	"Unearthing the Wild Self" https://exhibitions.brighton.ac.uk/students/ellie-pike/
	Lara Coassin	Fashion Communication with Business Studies / ファッション・コミュニケーション&ビジネス	"Mycoworkers" https://exhibitions.brighton.ac.uk/students/lara-coassin/

名古屋芸術大学芸術学部芸術学科音楽領域 第50回卒業演奏会

3月9日(木)名古屋伏見にある電気文化会館ザ・コンサートホールに於いて第50回卒業演奏会が開催され、各コースで実施された卒業試験において優秀な成績を上げた学生の中から鍵盤楽器コース(ピアノ)より羽田結奈、瀧澤俊、鍵盤楽器コース(電子オルガン)より杉村真央、黒田詩穂、声楽コースよりソプラノ武田紗那恵、堀江七海、バリトン衣斐素良、弦管打コースよりホルン木下千風悠、

トロンボーン松下沙樹、バスクラリネット小野澤諒、ウインドアカデミーコースより古瀬茜の11名の演奏が披露された。

それぞれが4年間の学びの集大成として個性あふれる堂々としたステージを飾り、記念すべき第50回に相応しい華やかな卒業演奏会となった。

音楽領域 准教授 遠藤宏幸

名古屋芸術大学 大学院音楽研究科 第25回修了演奏会

来る2023年3月1日に電気文化会館ザ・コンサートホールにおいて名古屋芸術大学大学院音楽研究科「第25回大学院修了演奏会」が行われました。この演奏会には今年度大学院を修了する3名(ピアノ2名、声楽1名)の学生が出演しましたが、

それぞれが大学院で培った技術や感性を余すことなく演奏で表現していました。来場していた観客も卓越した演奏を楽しみつつ、若き演奏家に惜しめない拍手を送っていました。

音楽研究科 教授 依田 嘉明

第50回名古屋芸術大学卒業・修了制作展(美術領域・デザイン領域・芸術教養領域)

第50回名古屋芸術大学卒業・修了制作展を2023年2月17日(金)～26日(日)の10日間の日程で本学西キャンパスを会場に開催致しました。ようやく脱コロナに舵を切り始める中、本展も感染対策を極



キャンパス開催のシンボル
「ソツテンの赤ゲート」

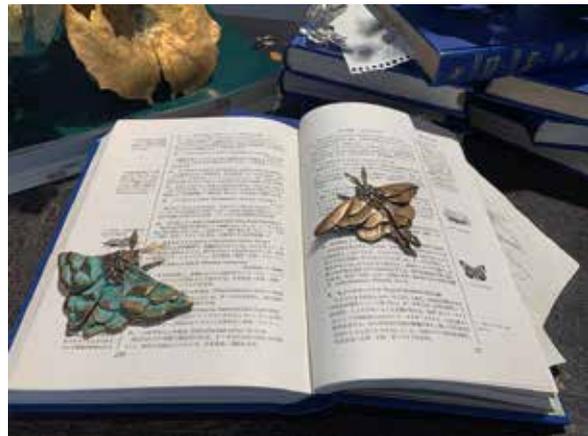
力緩和させての開催となりました。会期中やや天候の崩れもありましたが、キャンパス開催も5回目を迎え、本年度は前年を1000人あまり上回る過去最高の5782人の入場者数を記録致しました。

今回出品した300余名の学生たちは、世界的な



本学卒業生の白澤真夫氏ディレクションによる本展ポスター

コロナ禍による大きな動揺と停滞の中、大学生活においてもさまざまな制限を強いられながらも、目標に向かって知識や技



2022年度卒展最優秀賞作品「桃源郷」奥岡夢乃
(デザイン/メタル&ジュエリーコース) [作品の一部]

術の修得に努め、この制作展に成果を提示しました。絵画やデザイン、映像、テキスト表現など多彩な形式による作品を見渡すと、多くがある抑制に対する抵抗や焦燥、またはその受容、更には行動が制限される中で自身や暮らしの周辺に対する観察の解像度が高められたが故の発見や思索に根ざしたものが多く感じられました。

本展の魅力を高める関連企画も、本年度更に充実がはかられました。開催前のプレ企画としての千住 博氏(日本画家・日本芸術院会員)による記念講演会を皮切りに、期間中の名芸大卒業生によるトー



第26回ブライトン大学賞グランプリ受賞作品
「firene project」高岡卓史
(デザイン/スペースデザインコース)

クイイベント、会期の最後を飾った本学卒業生であり、新進気鋭の映像作家として今注目のOSRIN氏による記念講演会では、卒業生や一般来場者、我々教職員に対して心に響く多くのメッセージを届けました。その他、音楽領域学生による「ウィークエンドコンサート」、[NUA ART SHOP]での卒業生や在学生の作品販売、ゲストも交えながら多様なプログラムを



「生きる彫刻」として会期中煙を吐き続ける作品として注目を集めた「命のファンファーレ」齋藤勇介 (美術/アートクリエイターコース)

発信する「アールラジオ」は既に本展の恒例企画となっています。そして今回、初めての試みとして、名芸大ロータリーアクトクラブの企画による「名芸大チャリティーオークション」が開催され、本展にまた新たな趣向が加わり

名古屋芸術大学 大学院美術研究科 修了制作展

美術研究科15名は修了制作展に先立ち2月10日に実施された大学院論文等審査試験に臨み、大学院で研究、制作した成果を研究科担当教員や学生を前に発表した。コロナ禍でなかなか思う様に制作に集中できない状況の中、大学院2年生たちはそれぞれ研究、制作に励み、2年間の自己研鑽

ました。

卒業生、修了生、在學生、教職員はじめ、後援会、同窓会、賞の設定などでお世話頂く関係企業の皆さまの長年の



各界で活躍する卒業生によるトークイベント「私の出発点」～そういえば、原点(ルーツ)は、名芸だよ

熱意やご支援が実り、本展は今年度で50回を重ね



キャンパスを背景に風のカタチが映えるテキスタイル作品「印象をかたち。」高崎はなの(デザイン/テキスタイルデザインコース)

るに至りました。名芸大は、引き続き、教育研究の成果発信を中心に据えた中核事業として本展を推進して参ります。次年度からは、音楽関連の卒業・修了演奏・公演を統括する事業として立ち上げた音楽領域芸術祭「TuTTi」との連携も深めながら、卒業・修了制作展の充実・発展

に努めたいと構想しておりますので、引き続きよろしくご支援、ご協力をお願い申し上げます。

芸術学部長 萩原 周



キャンパスの緑と共鳴、浮遊する作品「whereabouts」三嶋純華(美術/アートクリエイターコース)

の研究成果として、2月17日から2月26日までの10日間にわたって行われた「大学院研究科修了制作展」(学部卒業制作展と合同)において、それぞれの力作を出展した。

ADセンターなど、学内施設を使用したその研究内容は個性豊かで、絵画から立体、インスタレー

ションなど、バラエティに富んだ数々の作品は非常に魅力的であり、多くの方から好評を得ていた。展示には予想を上回る多くの方に来ていただき、直接彼らにアドバイスや感想を話していただく場面も多くあった。修了制作展の貴重な経験は卒業後の創作活動に大いに役立つはずである。彼らが今



後どのように活躍の場を広げていくのか非常に楽しみであり、これからも見守っていきたい。

美術研究科長 松岡 徹



名古屋芸術大学 大学院デザイン研究科 修了制作展

学内で行われている卒業制作展と同時開催された大学院修了制作展にデザイン研究科生20名が出品した。ヴィジュアルデザイン研究の崔琳さんは、日中同形異義語をタブロイド誌の形式で、楊博寧さんは山西省における古建築を図鑑の形式で、余灯さんはムスリムの食文化を食生活写真で提示した。劉佳さんは性の自由をコラージュによるインスタレーション作品として、王巍さんは子供のメンタルケアを絵本で、陳怡薇さんは中国式の恐怖をイラストレーション作品として、川浦真歩さんはアンログとデジタルを融合させた顔のグラフィック作品を制作した。



メディアデザイン研究の張帆さんは長回し

の技法を生かした映画作品を、霍然さんは気持ちがうまく通じ合えない様を手書きのアニメーション作品として、浅田一樹さんは希少な観葉植物を消費財ととらえないでというメッセージをいろいろなメディア形式で、郭文アさんはジェンダーの世界観をAR技術を生かした形で、董芳林さんは少女特有



のイメージを独特なタッチのイラストレーションで、それぞれ表現した。ライフスタイルデザイン

研究の清水香奈さんはファッション



の原点を探りつつどう現代にアレンジされてきたかを年表やキャラクターデザインとして、オウケイウさんは先輩から後輩への家具などの譲受けをアプリとしてシステム化して、孫南山さんはヒッチハイクのステーションを全国の観光拠点に設置していくシステムをそれぞれ提案した。3Dデザイン研究の辻村大地さんは農地や都会の両方に馴染むモビリティの未来像を、王詩語さんは災害時にも有効な未来のベビーカーのデザインを、陳雪晴さんはパーキンソン病のリハビリテーションにゲームを取り入れた装具のデザインを、青山健太郎さんは間伐材の集成材から作られた建材をその特徴を生かしたデザインの家具として、清水祐作さんはコロナ禍から始まったモバイルパーソナルスペースを収束した後の未来のコミュニケーションツールとしての活用までをリアルタイムで変化させたユニットとして提案した。

名古屋芸大の院生としての2年間はずっとコロナ禍ではあったが、逆にその特別で貴重なこの期間に彼ら自身がどのようなことを感じ、体験し、研鑽したかという成果を、作品を通して自らのメッセージを社会に問うかたちで、この修了展で提示することができた展覧会であった。それぞれの今後の活躍を期待している。

デザイン研究科長 駒井 貞治

皆さん受賞おめでとうございます

2022年度の本学在学学生(学部及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果を報告します。学外のイベントでの受賞者については、本人及び教員を通じて広報部に報告があった内容を掲載しています。

芸術学部 音楽領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	楽器など	学年・卒業期	氏名
2022年						
5月4日	第12回 岐阜国際音楽祭	一般社団法人岐阜国際音楽祭	ピアノ 大学 専門部門 第1位 優秀賞 審査員特別賞	ピアノ	音楽領域 鍵盤楽器コース 2年	小柳 さら
			ピアノ 大学 専門部門 第2位 審査員特別賞	ピアノ	音楽領域 鍵盤楽器コース 4年	横井 彩人
			ピアノ 大学 専門部門 第3位 審査員特別賞	ピアノ	音楽領域 鍵盤楽器コース 2年	神谷 風花
			金管楽器 大学 専門部門 第3位	テューバ	音楽領域 弦管打コース 3年	水野はるか
			木管楽器 一般 専門部門 第2位	ファゴット	大学院音楽研究科 1年	佐保 春奈
			声楽 一般 専門部門 第3位 岐阜市長賞	声楽	大学院 音楽研究科 声楽専攻 2019年3月修了	山内 由香
6月5日	第41回 飯塚新人音楽コンクール	飯塚文化連盟	第1位	声楽	大学院 音楽研究科 声楽専攻 声楽演奏研究 2017年3月卒	山田 知加
6月25日	第32回 宝塚ベガコンクール	宝塚市公益財団法人宝塚市文化財団 宝塚ベガ音楽コンクール委員会	ピアノ部門 第2位 聴衆審査員特別賞	ピアノ	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究 2年	東 祐輔
6月25日	第8回 仙台国際音楽コンクール	仙台国際音楽コンクール組織委員会 仙台市公益財団法人仙台市民文化事業団	ピアノ部門 第3位	ピアノ	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究 2年	太田 糸音
7月18日	国際交流のど自慢大会	一宮市民会館等指定管理者 JNP-宮パートナーズ	最優秀賞	-	大学院 音楽研究科 音楽学専攻 音楽療法研究 2年	呉 依幹
8月11日	第2回 新都心国際ピアノコンクール	一般社団法人高等教育開発	大学生の部 第3位 (1位なし)	ピアノ	音楽領域 プロフェッショナル アーティストコース 2年	棚澤 実寿
8月27日	第18回 ルーマニア国際音楽コンクール	NPO法人日本ルーマニア音楽協会	ピアノ部門 第3位	ピアノ	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究 2年	東 祐輔
9月5日	第7回 コインブラ・ワールド・ピアノ・ミーティング	Academia Internacional de Musica Aquilaes Delle Vigne	第1位	ピアノ	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究 2年	太田 糸音
12月6日	第8回 学生の音楽録音作品コンテスト	一般社団法人 日本オーディオ協会	奨励賞	-	音楽領域 音楽総合コース 3年	古田 晏悠
2023年						
1月8日	第28回 KOBE国際音楽コンクール	KOBE国際音楽コンクール実行委員会	声楽部門 最優秀賞兵庫県教育長賞	声楽	大学院 音楽研究科 声楽専攻 2019年3月修了	山内 由香

芸術学部 美術領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2022年						
6月21日	アートオリンピア 2022	一般財団法人 山口文化財団	第1位 金賞	1998年3月修了	大学院 美術研究科 造形専攻 絵画制作研究 (油彩)	藤原 史江
9月7日 ~9月19日	2022年度 第106回 二科展	公益社団法人 二科会	彫刻部 文部科学大臣賞	1977年3月卒	美術学部 彫刻科	山田 将晴
10月27日	第9回 日展 名古屋展	公益社団法人 日展	第1科 日本画本年度特選	1998年3月卒	美術学部 絵画科日本画コース	齋藤 義文
				1995年3月卒	美術学部 絵画科日本画専攻	林 真
				2008年3月修了	大学院 美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作研究	福本 百恵
			第1科 日本画前年度 特選による無鑑査	2004年3月卒	美術学部 絵画科日本画コース	榊原孔美子
				1997年3月修了	大学院 美術研究科 造形専攻 絵画制作研究	福岡 正臣
			第1科 日本画新入選	2021年3月卒	芸術学部 芸術学科 美術領域 日本画コース	安藤 祐実
				2021年3月修了	大学院 美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	大見真里佳
				1年	大学院 美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	楊 亞舒
			第1科 日本画入選	4年	芸術学部 芸術学科 美術領域 日本画コース	佐藤 正子
				1991年3月卒	美術学部 絵画科 日本画専攻	服部 泰一
	2006年3月修了	大学院 美術研究科 造形専攻 膠彩制作研究	若崎 文絵			

芸術学部 美術領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名		
2022年								
10月27日	第9回 日展 名古屋展	公益社団法人 日展	第1科 日本画入選	1996年3月卒	美術学部 絵画科 日本画専攻	岡本 昌子		
				2006年3月修了	大学院 美術研究科 造形専攻 彫彩制作研究	梅村 愛		
				2018年3月修了	大学院 美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	山守 良佳		
				2013年3月修了	大学院 美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	磯部 絢子		
				2011年3月修了	大学院 美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	戸田 淳也		
10月23日					第2科 洋画入選	1978年3月卒	美術学部 絵画科 洋画専攻	安藤 嘉一
						2007年3月修了	大学院 美術研究科 造形専攻 絵画研究 洋画制作研究	山内 大介
10月27日					第3科 彫刻特選	2015年3月修了	大学院 美術研究科 美術専攻 造形研究 彫刻制作	加藤 真浩
						1986年3月卒	美術学部 彫刻科	田中 宏典
						2015年3月卒	美術学部 美術学科 アートクリエイターコース	松井みどり
10月27日	三菱商事アート・ゲート・プログラム 2021 - 2022	三菱商事株式会社	スカラシップ (奨学生)	2年	大学院 美術研究科 同時代表現研究領域	宇留野 圭		
12月2日	CAF賞 2022	公益財団法人 現代芸術振興財団	名和晃平審査員賞	2年	大学院 美術研究科 同時代表現研究領域	宇留野 圭		
12月13日 ~12月25日	第17回 CBC翔け！二十歳の記憶展	CBCテレビ	グランプリ	3年	美術領域 日本画コース	大竹しおり		
			準グランプリ松坂屋画廊賞	4年	美術領域アート クリエイターコース	鈴木 寛子		
			準グランプリ	4年	美術領域アート クリエイターコース	金城 琉斗		
			中日新聞社賞	3年	美術領域 洋画コース	高田 陸人		
			愛知県教育委員会賞	4年	美術領域アート クリエイターコース	池田 考作		
			名古屋市教育委員会賞	4年	美術領域アート クリエイターコース	田村くるみ		

芸術学部 デザイン領域

日付	イベント名	主催	順位、受賞など	学年・卒業期	コース	氏名
2022年						
4月26日 ~5月1日	第56回 中部染色展	中部染色作家協会	中部染色作家協会賞	2022年3月卒	デザイン領域 テキスタイル デザインコース	坂本 萌
			名古屋市長賞	2022年3月卒	デザイン領域 テキスタイル デザインコース	新木 萌愛
			中日賞	2021年3月卒	デザイン領域 テキスタイル デザインコース	道下 凧沙
			愛知教育委員会賞	2016年3月卒	デザイン学科 テキスタイル デザインコース	山下 眞美
			激励賞	2008年3月卒	デザイン学科 テキスタイル デザインコース	小沢 千晴
8月17日	第1回公募展 古川美術館Fワード ~次世代につながる~入選作品展	公益財団法人古川知定会	審査員特別賞	2022年3月卒	デザイン領域 テキスタイル デザインコース	小林 寛子
			入選	2016年3月卒	デザイン学科 テキスタイル デザインコース	山下 眞美
10月11日	JAGDA国際学生 ポスターアワード 2022	公益社団法人日本 グラフィックデザイン協会	銀賞特種東海製紙賞	3年	デザイン領域 ヴィジュアル デザインコース	小木管理緒
			入選	3年	デザイン領域 ヴィジュアル デザインコース	新西 涼
			入選	3年	デザイン領域 ヴィジュアル デザインコース	野田 晴香
			入選	3年	デザイン領域 ヴィジュアル デザインコース	松本日菜子
			入選	1年	大学院 デザイン研究科 デザイン専攻 ヴィジュアルデザイン	劉 天宇
10月13日	JAPAN TEXTILE CONTEST 2022	JAPAN TEXTILE CONTEST 開催委員会	シーズ賞	4年	デザイン領域 テキスタイル デザインコース	江口 桃世
				4年	デザイン領域 テキスタイル デザインコース	納家 順
				3年	デザイン領域 テキスタイル デザインコース	細江 優花
11月20日 ~11月26日	NAGOYA NEW クリエイター 映像AWARD	スターキャット・ ケーブルネットワーク株式会社	準グランプリ	2年	デザイン領域 メディアコミュニケーション デザインコース	樋廻 里彩

国際交流事業について

- ①北名古屋市子ども芸術教室（音楽）
- ②交換留学生作品展・留学生異文化体験交流

2022年度は、交換留学生の受け入れ再開、日本人学生の大学間交流協定等に基づく留学プログラムへの日本学生支援機構による奨学金の正式再開など、本学の国際交流が再び活気づいた1年でした。4月から5月にかけて、イギリス、フランス、イタリアからの交換留学生5名が来学し、美術、デザイン領域でそれぞれの専攻分野や本学ならではの実技科目を受講しました。9月からは、交換留学生として初めての音楽領域の学生と、美術、デザインの学生がドイツ、フランスの協定大学から4名来日しました。そのため交換留学生たちを中心とした行事が再開し、前後期にわたり、「交換留学生展」を開催しました。また、北名古屋市国際交流協会と共催した「国際交流子ども芸術教室」を7月にはデッサンを中心に西キャンパスで、12月には楽器と触れ合うイベントを東キャンパスで開催し、地域の子どもたちと交流しました。さらに新たに、北名古屋市の「平和夏祭り」に北名古屋市の地元の皆様のご協力を得て、正規・交換留学生が浴衣で参加させていただきました。北名古屋市長との記念撮影もして、地域

北名古屋市子ども芸術教室（音楽）

2022年12月3日（土）、本学東キャンパス2号館1階ロビーにおいて、「北名古屋市子ども芸術教室（音楽）」を開催しました。このイベントは、毎年、北名古屋市国際交流協会からの依頼を受けて、本学近隣の小学生たちにとって、留学生との交流や芸術を体験する機会となるよう行われてきたものですが、コロナ禍の影響で、音楽分野では3年ぶりの開催となりました。

本学音楽ケアデザインコース（旧音楽療法コース）の卒業生および留学生で構成されたミュージックボランティアグループ「ichigo」が、アニソンなど誰もが聴いたことのある曲の演奏や、世界の楽器体験、音楽療法でよく用いられる楽器「トーンチャイム」の合奏体験など盛り

のボランティアの方と一緒に日本の盆踊りや夜店を楽しみました。留学生にとって、地域との関わり合いを通じて日本社会の理解を深めることは、大学の学びだけでは得られない貴重な経験だったと思います。また、これらの行事と一緒に参加した日本人の学生にとっても、地域や子どもとの交流は新鮮な経験だったようです。

学内外での留学生の活動は、本学の学生にも海外への興味関心を高めています。一緒に授業を受けた学生が、日本の学生とは異なる学びの姿勢に刺激を受けたり、帰国後も連絡を取り合い留学への道を歩み出したり、ところどころで留学生の存在が影響しています。学術交流協定に基づく学生交流は、本学の国際化への影響のみならず、地域との繋がりを生み出す事業だと改めて認識しました。ポスト・コロナの2022年は、手探りながら、学内外の皆さまの協力のおかげで、国際交流が再開できた貴重な1年でした。まだまだ不確実な世界情勢は続きますが、人々の自由な交流が阻害されず、少しでも国際的な交流が発展していくことを期待します。

（国際交流センター 松崎 久美）



だくさんの企画を繰り広げる中、参加した小学生20名とその保護者、本学の交換留学生4名が楽しくにぎやかな交流の時間を過ごしました。

交換留学生の皆さんも、会場内のクリスマスツリーの飾りつけをしたり、飛び入りで、ウクレレを弾きながら「オー・シャンゼリゼ」や「We Wish You A Merry Christmas」を合唱したりと、場を大いに盛り上げてくれました。イベントの少ない日本留学期間の中で、良い思い出の一つになってくれれば嬉しく思います。

（広報部 国際交流チーム 今泉 慶子）

2022 年後期交換留学生作品展 -The Exhibition of Exchange Students-

2022年12月2日(金)～7日(水)西
キャンパス Art&Design Center West にて、
「2022 年後期交換留学生作品展」を開催しま
した。

今期はフランス・ディジョン国立高等美術学校
より2名、ドイツ・ブレーメン芸術大学より1
名、ドイツ・デトモルト音楽大学より1名の学
生が交換留学生として本学で学んでいます。

本展覧会では美術領域・デザイン領域学生に
よる、スペースデザイン、写真、陶芸や金工な
どの作品に加え、音楽領域で学ぶ学生も展示作
品をイメージした音源を制作し、それぞれの日
頃の制作の成果を発表しました。

オープニングレセプションでは、新型コロナ
ウイルス感染防止対策として立食パーティーは
実施できず、まだコロナ禍前のような賑やかさ
はありませんが、日本語で一生懸命スピーチし
たりなど、ご来場の皆様から温かい拍手をいた
だきました。

留学生異文化体験交流事業

さまざまな体験を通じて留学生や日本人学生
同士の交流イベントとして開催している今事業
は今年で二年目となります。今回は交換留学生
4名、正規留学生3名が参加し、2022年12
月10日(土)、名古屋市港区にあるメイカー
ズピアを訪れ、スタンドグラスでミラー・カー
ドスタンドづくり体験、食品サンプルでスマホ
スタンドづくり体験に参加しました。

交換留学生たちは日本語が十分に理解できる
わけではありませんが、全員芸術系の学生だけ
あって飲み込みが早く、すぐに作り方をマスタ



ーしてしま
いました。
講師の方か
らアドバイ
スをいただ
いたり学生
同士で教え

慣れない異国
生活の中で先生
方やピアサポ
ーターの協力のも
と、キャプショ
ン作成や展示方
法など自らす
すんで意欲的



に準備を
進め、盛
況のう
ちに展
覧会
を終
える
こと
が
出
来
た
こ
と
は、
留
学
生

生たちにとって今後の制作の糧となってくれば嬉しく思います。

ご来場いただいた学内外のたくさんの方々、
ご協力いただいた先生方、関係者各位に心より
感謝申し上げます。

合いながら、
それぞれの個
性が光る作品
が出来上がり
ました。

また、金城ふ
頭からささし
まライブを結
ぶクルーズ船
に乗船しまし
た。

名古屋港～
中川運河を通って名駅エリアまで続く名古屋の
街を船で巡ることはとても新鮮な体験で、皆写
真や動画を撮ったり楽しんでいる様子でした。

学生たちの中で日本での思い出のひとつとな
ったこと、新しく出来た友人とこれからも交流
が続くことを願っています。

(広報部 国際交流チーム 中村朝奈)



実施報告

後援会補助公開講座

芸術学部芸術学科音楽領域

カレイドスコープ

2023年2月11日(土)、サウンドメディア・コンポジションコースの作品発表コンサート『Kaleidoscope 2023 Novus』を開催いたしました。このコンサートは、本コース学生が主体



となって、作曲・音響・録音の学習成果を発表する場であり、音楽と映像とテクノロジーを駆使した実験的な音楽空間を作ることを目指したものです。今年のテーマは『Novus』。ラテン語で「新しい」という意味を持つこの言葉には、3年ぶりに多くのお客様を迎えて行うことができる今回のカレイドスコープで、新しい形の演奏会を作りたいという意味が込められています。当日は東キャンパス2号館大アンサンブル室をメイン会場に、今回初の試みとして、サテライト会場(2号館中アンサンブル室とオルガンホール)を設け、13名の学生(ドイツ・デトモルト音楽大学からの交換留学生1名含む)が様々なスタイルの作品を発表しました。以下よりライブ配信のアーカイブをご

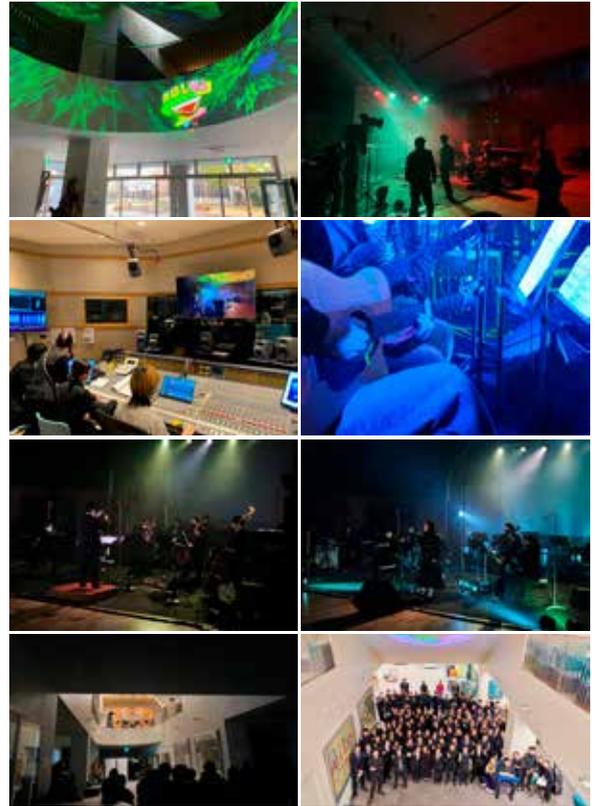
視聴いただけます。ぜひご覧ください。

<アーカイブ動画webページ>

<http://soundmedia.jp/kaleido2023>

次回もより魅力的なコンサートにできるよう企画を考えています。ぜひ足をお運びいただければ幸いに存じます。今度ともご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

音楽領域 准教授 原田 裕貴



芸術学部芸術学科舞台芸術領域

舞台芸術領域は、2021年4月に開設されました。舞台芸術作品を制作する人材を育成することを目的として、舞台プロデュースコース、演出空間コース、(音響・照明)、舞台美術コースを包含しています。3コースに分かれているものの、卒業時まで3コースが協働で学ぶ特徴的な領域です。各コースの専門性を深めつつ、常に他コー

スの専門性にも関わる必要があることから、舞台芸術領域では1年生に「舞台ファンデーション」として全コースの専門分野の導入を学んだ上で、学生の希望や特性に鑑みて、2年次への進級の際にコースを選択します。

2022年4月、2年生に進級した一期生がコースに分かれ、専門的な学びをスタートさせました。

後援会補助公開講座

7名の舞台プロデュースコース、13名の演出空間コース、そして17名の舞台美術コースです。開設2年を迎えた春には、完成したばかりの舞台美術工房で実際に舞台美術作品の制作ができるようになり、その工房で、簡易的な機材を使って音響や照明と舞台美術を組み合わせることができるようになりました。工房は、道具制作が混雑していない時には、ダンスや演劇の稽古場としても使用できるため、丁寧な作品づくりには恵まれた環境が整備されたこととなります。そして3コース合同で実施する科目「プロジェクトワーク」において、一期生は8月には初めての学生制作によるダンス公演を実施することができました。

そして開設2年目となる本年度は、54名の二期生を迎えることができました。舞台芸術ファンデーションとして導入の学びを重ねつつ、2年生の学生公演のリハーサル見学や、授業外での公演に2年生と共に参加したりするなど、二期生ならではの経験を重ねています。

次年度も初めての挑戦を繰り返していきますが、教員一同、全力で領域運営に力を注いで参りますので、どうぞ今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

*尚、舞台芸術領域の舞台プロデュースコースは、音楽領域アートマネジメントコースから接続されていくため、アートマネジメントコースのカリキュラムに基づいて設計されています。

舞台芸術領域 領域主任 梶田 美香

■ 2年生

- ・初めての学生公演「陰影の住処を探して」
(2022年8月5日名古屋芸術大学アートスクエア)

浅井信好演出によるダンス公演を、学生による企画制作で行いました。公演制作のための科目である「プロジェクトワーク3」の成果発表として、名古屋芸術大学アートスクエア上演しました。



- ・ワーク イン プロGRESS
(西キャンパス舞台美術工房)

舞台美術コースは、学生公演のための舞台美術制作過程を、西キャンパス舞台美術工房で公開しました。



- ・ピアノコンサート (東キャンパス1号館ロビー)

舞台プロデュースコースは、学生公演の広報のために、プレ企画としてピアノコンサートを企画しました。



- ・施設実習

多くの劇場や舞台美術工場の見学をしました。



新国立劇場



世田谷パブリックシアター

俳優座大道具工場

後援会補助公開講座

■ 1年生

・ 成果発表

次年度夏の公演を目指して、グループに分かれてマケット（舞台模型）を製作し、ギャラリーEASTで展示しました。また、金井勇一郎先生（特別客員教授）からコメントを頂きました。



・ 舞台芸術演習 / プロジェクトワーク



芸術学部芸術学科芸術教養領域

「リベラルアーツ × X」

2017年の芸術教養領域開設年に始まった公開講座「リベラルアーツ × X（リベラルアーツかけるイクス）」も、後援会の助成のお陰様で6年目になりました。貴会の助成に感謝申し上げます。



酒井准教授の質問に答える大島さん（奥）

第14回目（初年度からの通番）は、11/5 午後、本学西キャンパスで「リベラルアーツ × 小説と自由」と題して行いました。ゲストは本領域特別客員教授の直木賞作家・大島真寿美さん、司会は本領域の酒井健宏准教授でした。後半は、小学館出版局文芸デジタル出版企画室編集長で、大島さんの『たとえば、葡萄』の編集もされた片江佳葉子さんにも参加して頂きました。本領域生のみならず、文芸ライティングコースの先生方や学生達、一般の方々にも多数ご参加頂きました。

これは7月、学内向けに「現代芸術と文化」の授業の一つとして開かれた講演会の続篇という位置づけでした。ただし今回は、9月出版の



酒井准教授（左）と大島さん（右）

『たとえば、葡萄』の執筆・出版秘話を中心に、初めて聞く人にも分かりやすく、興味深い内容満載でした。大島さんの神懸かり的ともいえる小説の書き方や、楽しく明るいお人柄、片江さんの編集者としての矜持、大島さんと片江さんの信頼関係などが伝わってきました。新刊



大島さん（左）の新刊の装丁など「こだわり」ポイントを説明する片江さん（右）

後援会補助公開講座

の出版・装丁にかけた片江さんの思いなど、私も興味津々で仕事を忘れ聞き入りました。これらは将来、小説家を含む芸術家をプロデュースするなど、アートと社会・人々を繋ぐ架け橋になる人を育てる本領域の目標に合致します。会場からの質問も相次ぎ、惜しくも時刻通りに終了した後も、個別の質問に大島さんは親切に答えてくださいました。中日新聞社の文化芸能部の記者さんも来られ、同月18日の夕刊に記事が掲載されました。

芸術教養領域 領域主任 茶谷 薫



鼎談する大島さん（中央）、片江さん（右）、酒井准教授（左）

教育学部・人間発達学部

「コロナ禍で考える!子どものからだと心」

講師 野井 真吾氏

(日本体育大学 体育学部長)

今年度の特別公開講座は、新型コロナウイルスの感染が社会問題となった2020年以来、初めての大規模会場(名古屋芸術大学アーツスクエア大ホール)での講演会となりました。特別公開講座は、地域の保育所、幼稚園等の職員や保育・幼児教育関係者、本学の学生・教職員を対象として、毎年実施しているもので、今回は、講師として日本体育大学体育学部長の野井真吾氏をお招きし、「コロナ禍で考える子どものからだと心」というタイムリーなタイトルで、コロナ禍の子どものたちの生活環境に見られる問題を話していただきました。



野井先生は、新型コロナウイルスが流行する前から、「すぐ「疲れた」という子ども」、「朝起きられない子ども」など、子どもたちの「からだのおかしさ」(健康と病気の間の状態)に着目し、生活習慣との関係などを明らかにしてきました。メラトニンの分泌のデータを基に、良好な睡眠には、昼の日光、夜の暗環境、外遊びが重要であ

ることなど、そういった「からだのおかしさ」と生活習慣との因果関係をデータに基づいて示しています。さらに、子どもが「ワクワク・ドキドキ」することも、とても重要な体験であると話され、そういった工夫を意識して保育・教育に取り入れることを提案しています。そして、新型コロナウイルスの蔓延による休校が、子どもたちに与えた変化などについても、データを示しながら詳しく話していただきました。

久しぶりの大規模会場での講演会でありましたが、万全の感染対策を講じて無事開催することができたことを多くの関係者の皆さまに感謝したいと思います。

教育学部長 溝口 哲夫



TOPICS



留学生別科

「留学生別科 作品展」の開催

1月20日(金)から1月25日(水)にかけて、留学生別科に在籍する学生たちの作品展が東キャンパス内アート&デザインセンターイーストで開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大の余波を受けて大幅に日本への入国が遅れ、日々日本語の習得のために必死になっている別科生ですが、カリキュラムに沿って各自が作品を造り上げ、何とかこのたびの作品展開催に至ることができました。

作品のほんの一部を以下に掲載の写真でご紹介しますが、色合いや馬などの動物の造作など、豊かな個性が発揮されており、ユニークな作品もあればリアルな作品もあり、見ていて飽きさせない作品展との意見もありました。

この留学生別科の作品展は今後も毎年開催する予定ですので、ぜひとも足を運んでいただき、ご覧いただければと思います。



国際交流センター

ディーキン大学(オーストラリア)の学生が本学「芸大祭」に参加

オーストラリアのビクトリア州にある公立大学「ディーキン大学」の学生が、11月初旬に本学で開催された「芸大祭(大学祭)」に参加しました。

学生はみなアートやデザインを学んでおり、作品への興味はもちろん、日本の大学における教員の助言指導などにも興味を抱いていたようで、対応した学生たちに「どのようなアドバイスをもらってこの作品を仕上げたのか」といった質問が投げかけられていたようでした。

言葉はぎこちなくても作品を通じて理解しあえる芸大祭という共通のテーマの場での出会いは、お互いの学生たちにとってとても思い出深い場になったことでしょう。



教育学部

学生による「ウインターイルミネーション」の実施

今からおよそ10年前、本学の人間発達学部(現 教育学部)の学生たちは、東キャンパス1号館前広場を眩いばかりのイルミネーションで飾り付け、地域の皆さんや学生同士の憩いの場として提供していました。

しかし、その後諸事情により休止となり、これまで実施されることはなかったのですが、今回、倉橋幸彦先生の声がけにより有志の学生たち(1年生12名)が集い、あれこれ検討した結果、ウイン



TOPICS PICK UP!



ターイルミネーションとして今年見事に復活しました。十分な時間がなく、また資材等の組付け等、慣れない手仕事の連続でしたが、何とか設置を完了させ、見事なイルミネーションが完成しました。小規模ですが、みんながアイデアを出し合って施した装飾は、冬の夜を情緒的に輝かせ、ちょっとした異次元の空間を提供しているようでもありました。

今後、できれば毎冬の恒例行事として確立させ、規模を拡大し、東キャンパスに幻想的な灯りを繰り広げる広場を提供していきたいと思っています。

「就職セミナー」が開催されました。

12月10日(土)に「教育学部主催 令和4年度就職支援セミナー(2~3年生対象)」が開催されました。

2部構成での開催となり、第1部では全体会として全員が集合し、就職活動に対する心構えや本学が支援する就職対策に関する説明が行われました。また、第2部では、4つの分科会(①:小学校、教職大学院。②:公立保育園、私立幼稚園、私立保育園。③:児童福祉系施設、公務員福祉行政。④:一般企業、大学院)に分かれて、それぞれ興味関心のある分野に参加し、具体的な説明(助言)などを受けていました。

各会場では、内定者や卒業生3から4名にお話しいただき、質疑応答の時間を設けて就職活動におけるノウハウなども伝授してもらっていました。そして、エントリーシートの書き方や面接対策などの採用試験に関する情報提供などもあり、現職教員としての経験や思いの込めた講話に、みな熱心に耳を傾けていました。

同窓会長の菅野謙一(愛西市立西川端小学校教諭)さんは、同窓会も本学学生を力強くサポートする姿勢を示し「いつでも声をかけてください。」との言葉をいただきました。



芸術学部芸術学科 音楽領域

晩夏のクラシックコンサート

本学では名古屋空港ビルディング株式会社と連携して、年に数回「県営名古屋空港ミニコンサート」を開催しています。新型コロナウイルスの影響により、しばらく開催ができない状況が続いていましたが、ようやく感染拡大が落ち着いた昨年の8月19日(金)、久しぶりに開催することができました。

今回のテーマは「晩夏のクラシックコンサート」です。もちろん暑い時期ですので納涼的な意味を含めつつも、久しぶりの開催という嬉しさもあって別の意味で熱くなっている雰囲気の中での演奏となりました。搭乗案内のアナウンスが流れる中、演奏が始まると会場の雰囲気もパッと変わり、聴衆の誰もが臨場感あふれる生の演奏に惹き込まれ真剣に聴き入ってくれていました。

王道のクラシック曲から情熱大陸などの誰もが聴いたことのある曲まで、弦楽四重奏の奏が空港内



に響き渡り、それに誘われたお客様や空港関係者の方々が次々と足を止め聴衆になり、終盤では多数の立ち見の聴衆が出るほどの盛り上がりとなりました。

TOPICS PICK UP!

芸術学部芸術学科 舞台芸術領域

舞台芸術領域@アートラボあいち

1月21日(土)から2月19日(日)に愛知県庁大津橋分室にある「アートラボあいち」にて「舞台を見つめる ～言葉と身体と音が織りなすドラマ～」をテーマに舞台芸術領域を知ってもらうためのさまざまなイベントを開催しました。

舞台芸術領域の紹介や舞台芸術のプロフェッショナルによる連続講座、本学教員による「舞台芸術のこれまでとこれから～見つめ考える場として～」と冠としたトークショー。そして、ラスト2日間は、2月18日(土)は第七劇場による「モノドラマ【声】」、2月19日(日)は「月灯りの移動劇場」と、舞台芸術領域をたっぷり堪能できる構成で多くの皆さんに楽しんでいただくことができました。

【第七劇場】 1999年に本学教員で演出家の鳴海康平を中心に設立。

主に既成戯曲を上演し、言葉の物語のみに頼らず舞台美術や俳優の身体とともに多層的に作用する空間的なドラマが評価されている。

【月灯りの移動劇場】 2015年に名古屋で創設されたダンスカンパニー。2020年に製作・発表したソーシャルディスタンス円形劇場(Peeping Garden)が有名。



芸術学部芸術学科 美術領域

岩倉市市制50周年記念モニュメントの制作

名古屋芸術大学が立地する北名古屋市に隣接する岩倉市が令和3年12月に市制50周年を迎えました。

岩倉市では同年11月に、折り紙で作成した「こいのぼり」の最多展示数でギネス世界記録に挑戦し、見事193,275枚の展示数という世界記録を達成し、ギネスに認定されたという出来事があったため、市の担当者から本学に、この「折り紙こいのぼり」を使って「市制50周年にふさわしい作品」を制作してほしいと依頼がありました。

これを受けてコミュニケーションアートコースの学生たちと岩倉市とで丁寧な打合せを何度も重ね、岩倉市の皆さんが心を込めて折られた小さな折り紙のこいのぼりをたくさん使い、子どもたちがこいのぼりの中を歩いて通れるほどの大きなこいのぼりを完成させました。写真のとおり、すごくインパクトある作品であったことから、子どもたちをはじめ、多くの皆さんに喜んでいただけようです。



(この作品は昨年12月1日まで岩倉市総合体育文化センター1階に展示されました。)

芸術学部芸術学科 デザイン領域

二輪デザイン公開講座の開催

デザインを学び始めた大学1,2年生を対象に、デザインの魅力を伝えるワークショップ「二輪デザイン公開講座(第10回)」が、公益社団法人自動車技術会デザイン部門委員会の主催により、本学西キャンパスにて開催されました。



新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、なかなか思うような公開講座が開催できない状況が続きましたが、何とか感染拡大が落ち着いた9月初旬に2日間にわたって開催することができました。

TOPICS PICK UP!



開催期間中はホンダ、ヤマハ、スズキ、カワサキの4メーカーで実際に活躍されているデザイナーの皆さんが講師となり、全国から参加した32名の学生たち(本学学生は5名が参加)は、講義やワークショップなど盛りだくさんの内容で、どっぷりとバイクデザインの世界を体験していました。

芸術学部芸術学科 芸術教養領域

公開講座「リベラルアーツ×小説と自由」

11月5日(土)に西キャンパスにおいて、芸術教養領域公開講座「リベラルアーツ×小説と自由」を開催しました。

この講座ではまず本学特別客員教授で作家の大島真寿美先生が芸術教養領域の学生を前に「リベラルアーツ×小説と自由」というテーマでお話をされ、続いて先生の最新刊である『たとえば、葡萄』を取り上げ質問する形式で進みました。その中で大島先生は「言葉という曖昧な道具を使い、物語さまの下僕となって書いていくのは不自由だが、それによって考えもしないところに連れていかれる自由がある」と話され、つまり小説は自由とイコールであると説明されました。

また、講座の後半では、大島先生を「天才肌の作家」と評する小学館編集者の片江佳葉子さんが登壇され、編集者にとって大事なことは「雑談力」であると話され、長電話や世間話をする中で『たとえば、葡萄』が誕生するきっかけをつかんだというリアルな話をされていました。



大島 真寿美

1962年愛知県生まれ、名古屋市在住。92年「春の手品師」(『ふじこさん』講談社文庫所収)で第74回文学界新人賞を受賞デビュー。同年すばる文学賞最終候補『宙の家』(集英社、のち角川文庫)が刊行。2011年の『ピエタ』(ポプラ文庫)は第9回本屋大賞第3位。14年『あなたの本当の人生は』(文春文庫)で第152回直木賞候補。19年『渦 妹背山婦女庭訓 魂結び』(文春文庫)で第161回直木賞受賞。同作は続いて20年に第7回高校生直木賞、21年に第9回大阪ほんま本大賞を受賞した。映画化された『チヨコリエッタ』(角川文庫)、NHK連続ドラマとなった『虹色天気雨』『ビターシュガー』(ともに小学館文庫)ほか、『戦友の恋』『モモコとうさぎ』(角川文庫)、『空に牡丹』『ツタよ、ツタ』(小学館文庫)など著書多数。現代日本文学を代表する実力派作家。

大学事務局

名古屋芸術大学の授業を受講してみませんか?

名古屋芸術大学では、在学生の保護者やご家族の皆さんも大学の授業を受講いただける制度を設けています。

【生涯学習講座】

楽しく学べる多彩な講座を設置しています。詳しくは本学ホームページトップ画面を下にスクロール(移動)していただくと「生涯学習センター」というバナーがございますので、そちらをクリックのうえご確認ください。

お問い合わせ先：地域社会連携部 TEL:0568-24-0359

【科目等履修生】

学生が受講している授業を学生たちとともに学ぶことができます。もちろん単位取得可能です。詳しくは本学ホームページの受験生サイトから「科目等履修生・研究生等」をクリックのうえご確認ください。

お問い合わせ先：広報部 TEL:0568-24-0359

出願に関するお問い合わせ：広報部 TEL:0568-24-0318

科目の内容に関するお問い合わせ：学務部 東キャンパス TEL:0568-24-0321
西キャンパス TEL:0568-24-4174

名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会(以下「本会」といふ)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
(1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
(2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
(3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学(大学院生を含む)の保護者または、これに代わる者及び理事会が認めた本学卒業生の保護者、並びに本会の趣旨に賛同する企業または事業主等(以下、「賛助会員」といふ。))をもって組織する。
- 第5条 本会に役員及び理事をおく。
1 役員は、次の各号に掲げる者とする。
(1) 会長1名
(2) 副会長4名
(3) 監事1名
(4) 会計監査2名
(5) 書記1名
(6) 会計1名
2 本会に理事若干名を置く。
- 第6条 本会の役員及び理事の選出は次の方法による。
(1) 役員は総会において会員の中から選出する。
(2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
(3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
2 理事の選出は、理事会において会員の中から選出する。
(1) 理事の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の仕事は次のとおりとする。
(1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。
(2) 監事は会務を監査する。
(3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、理事会とし、議長はその都度選出する。

- 第9条 定期総会は原則として年1回、会長が召集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
(1) 事業の実施、収支決算及び予算に関する事。
(2) 会則の改定、会の解散に関する事。
(3) 役員の選出、その他役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した過半数をもって議決する。
- 第12条 理事会は出席役員・理事で成立し、会長が召集、議事は出席役員・理事の過半数で議決する。理事会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会をおく。また、必要に応じて理事会の承認を得て新たに委員会を設置することができる。
(1) 総務委員会
(2) 事業委員会
(3) 広報委員会
- 第14条 委員会に委員長1名、副委員長2名以内および委員若干名をおく。
委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は理事のうちから理事会の同意を得て会長が指名する。
- 第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は理事会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降大学院生までは年額10,000円とする。賛助会員の会費は別途定める。
- 第17条 本会の会計年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第18条 本会則の運営に必要な事項は、理事会の議を経て会長が定める。
- 附則
1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。
4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。
5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。
6 本改正会則は令和2年7月5日から実施する。

後援会旅費規程(抜粋)

- (目的)
第1条 本規程は、名古屋芸術大学後援会の役員、理事および会員の用務出張に要する旅費に関する事項を定める。
(旅費の種類)
第2条 旅費の種類は、鉄道賃、車賃、船賃、航空賃、目当および宿泊料とする。
(旅費の経路と計算)
第3条 旅費は自宅または名古屋芸術大学を基点とし、一般的な最短路によって計算する。ただし、用務の都合または天災その他やむを得ない理由で順路を経由し難い場合には、現に経過した路線によって計算する。(以下省略)
附則:この規程は、令和2年7月5日から施行する。

後援会表彰規程(抜粋)

- (目的)
第2条 この規程は、後援会表彰を公正かつ円滑に行うとともに、後援会員(顧問含む)、学生、教職員の功績をたたえることで、後援会活動に対する意欲向上、士気の高揚および後援会事業の改革・発展を促すことを目的とする。
(選考基準)
第4条 後援会員、学生または教職員の個人あるいはグループが次の各号の一つに該当するときは、これを表彰する。
(1) 後援会活動に誠実で、特に他の会員の模範となるとき
(2) 永年にわたり後援会活動への貢献が顕著なとき
(3) 学業成績が著しく優れ、または各種コンテストで上位入賞したとき
(4) 国家的・社会的功績があり、後援会および大学の名誉となるような行為があったとき
(5) その他前各号に準ずる行為または功績があり表彰すべきであると認められた場合(以下省略)
附則:この規程は令和2年7月5日から実施する。

名古屋芸術大学後援会 顧問の委嘱に関する内規

- 名古屋芸術大学後援会の顧問は、原則として、理事会の承認に基づき会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
 - 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
 - この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し理事会の承認を得るものとする。
- 附則:この内規は平成17年4月1日から適用する。
附則:本改正内規は令和2年7月5日から適用する。

名古屋芸術大学後援会 弔慰に関する内規

- 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金10,000円を給付する。
 - 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金10,000円を給付する。
 - 役員および理事の2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として10,000円を給付する。
 - 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
 - この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し理事会に事後報告する。
- 附則1. この内規は慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。
附則2. (略)。 附則3. この改正内規は、令和2年7月5日より施行する。

名古屋芸術大学後援会 公認サークル活動補助に関する内規

- 名古屋芸術大学後援会公認サークルである、『絵画グループ「壁の華」』及び『せせらぎ合唱団』の活動を活性化させるため、活動補助に関する事項を定める。
 - 通常のサークル活動における講師への謝金(交通費等を含む)は、サークルが徴収する会員からの月会費で賄うため、補助には含まない。
 - 学内外の会場で発表会等の活動を開催する場合に必要な会場レンタル費、運搬費、演出用品購入費、賛助への費用、及びこれらに準ずる費用等の一部について、これを給付する。
 - 緊急を要する場合あるいはこの内規で処理できない場合は、会長判断により執行した後、理事会に事後報告するものとする。
- 附則:この内規は、令和4年5月22日より施行する。

後援会賛助会員紹介

名古屋芸術大学グループに学ぶ学生・園児のためのよりよい教育・研究の環境づくりを支援
地域との共生を通して名古屋芸術大学グループ全体の発展に貢献



株式会社クレアーレ 名古屋芸大グループ

CREARE 〒481-0006 愛知県北名古屋市熊之庄古井 281
名古屋芸術大学東キャンパス 12号館 6階
TEL(0568)26-3355 FAX(0568)26-2101

- 音楽教室
- 清掃・警備
- 複合カルチャースクール
- 後援会事務局
- 損害保険の代理店
- 大学各部署への業務委託
- 大学施設の管理
- 自動販売機管理
- 物品調達
- 演奏者派遣
- 図書館の運営
- イベント請負



デザインから印刷・製本までトータルでお任せ！！

総合印刷

- ・チラシ・名刺・はがき・伝票・パンフレット・カタログ
- ・ポスター・自費出版・製本・企画・デザインetc...

有限会社 住吉孔版社

三重県四日市市住吉町 6-8

TEL 059-365-1924

FAX 059-364-2950

info@sumiyoshikouhan.co.jp

http://www.sumiyoshikouhan.co.jp

【編集後記】

「後援会報第74号」をお読みいただきありがとうございます。
関係者各位様にご尽力いただいたおかげで無事お届けする事が
出来、皆様に心より感謝申し上げます。

少しずつコロナ禍の制限が緩み、その度に試行錯誤した一年。
人との交流も増え、とても楽しい時間を過ごすことができました。
皆様のこれから益々のご活躍をお祈り申し上げます。

名古屋芸術大学後援会 副会長（広報委員長） 小池 真紀子

最新の詳しい情報は
大学ホームページをご覧ください。



名古屋芸術大学後援会報 第74号

- 発行日 令和5年(2023年)3月31日
- 発行人 渡邊 綱夫
- 編集 名古屋芸術大学後援会広報委員会
(小池真紀子、柳沼章子、服部彩、木俣清子、村瀬裕子)
- 発行所 名古屋芸術大学後援会
〒481-0006
愛知県北名古屋市熊之庄古井 281 番地
名古屋芸術大学(東キャンパス)12号館 6階
tel: 0568-26-3355 fax: 0568-26-2101
e-mail: kouenkai@nua.ac.jp
- 印刷所 有限会社 住吉孔版社
【無断転載禁止】

本誌掲載の記事(表紙、本文、図表、写真、イラスト等)を本会及
び著作権者の承諾なしに無断で転載(翻訳、複写、データベース
への入力、インターネットでの掲載等)することを禁じます。

名古屋芸術大学後援会

NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS SUPPORT SOCIETY